

我孫子市学校施設個別施設計画

令和2年3月

我孫子市教育委員会

我孫子市学校施設個別施設計画

目次

第1章	背景・目的等	1
1	背景	1
2	目的	2
3	計画期間	2
4	対象施設	2
第2章	学校施設を取り巻く現状	3
1	児童生徒数の変化	3
2	施設整備の実態	5
3	施設の劣化状況	7
4	今後の維持・更新コスト	11
第3章	学校施設の目指すべき姿	13
1	目指すべき姿	13
第4章	施設整備の基本方針	14
1	計画的保全による施設の長寿命化	14
第5章	今後整理すべき学校施設の課題と方向性	15
1	将来変化への対応	15
2	プール施設のあり方の見直し	17
3	給食施設のあり方の見直し	18
第6章	基本的な方針等を踏まえた施設整備の考え方	19
1	目標使用年数及び改修周期	19
2	改修等の整備水準	19
第7章	長寿命化の実施計画	21
1	改修等の優先順位付けと実施計画	21
2	長寿命化のコスト見通し	23
第8章	継続的運用方針	25
1	情報基盤の整備と活用	25
2	推進体制等の整備	25
3	フォローアップ	25
参考資料		26

第1章 背景・目的等

1 背景

本市は、1955年（昭和30年）に2町1村が合併し我孫子町となり、1970年（昭和45年）に市制を施行し我孫子市となりました。

高度経済成長期には、東京のベッドタウンとして宅地開発が進行し、人口も急増しました。これに伴い、保育園や学校、道路などを次々と建設し、公共サービスの提供や市民生活の基盤づくりを行うとともににぎわいも生まれてきました。

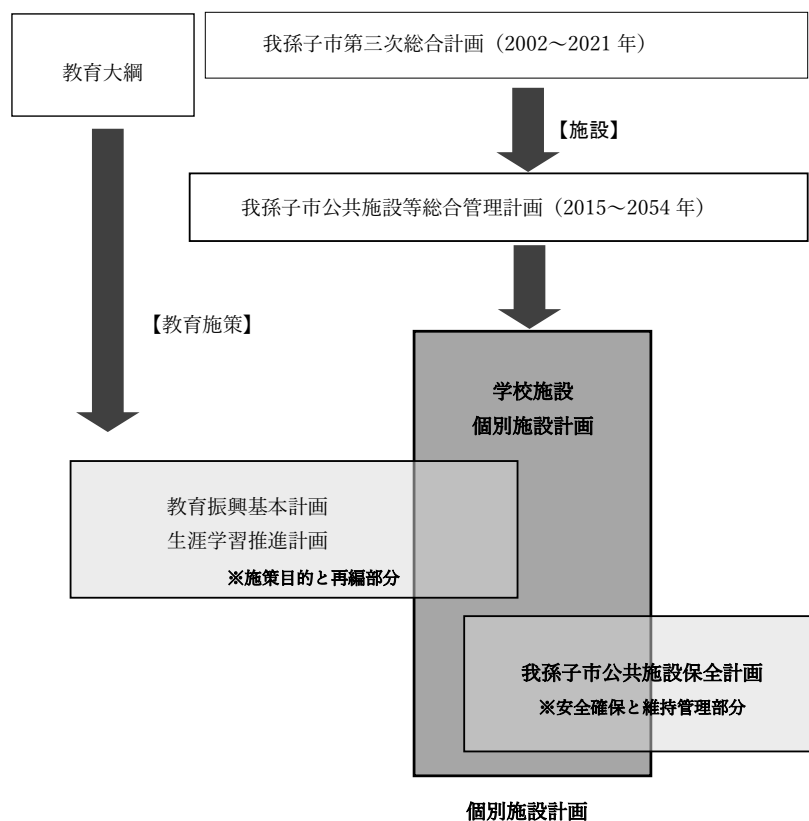
しかしながら、これらの公共施設等は老朽化が進んでいることから、その安全確保のため、機能維持や建替えのための費用が増え続けることが見込まれています。

このような状況に対して、各地方公共団体は、国から「公共施設等総合管理計画」策定の要請を受け、本市では2016年（平成28年）6月に策定しました。その基本方針を踏まえた各施設の個別施設計画（インフラ長寿命化基本計画：2013年11月にインフラ老朽化対策の推進に関する関連省庁連絡会議決定に基づく）を定めることにより、公共施設の再編や安全確保と維持管理の取り組みを進めることとしています。

また、学校施設においては、文部科学省より「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」及び「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」が公表されているとともに、2021年（令和3年3月）までの計画策定が求められています。

本市が保有する公共施設の約6割を占める学校施設は、91%が築30年以上と老朽化していますが、計画策定にあたっては、将来の小中学校の児童生徒数の減少も視野に、今後の学校施設の整備を検討する必要があります。

【図表 1-1 計画の位置づけ】



2 目的

本計画は、学校施設の老朽化が進む中、従来の「事後保全」の考え方から脱却し、機能や設備を良好な状態に保ち、施設を長く使う「計画的保全による長寿命化」の考え方を取り入れた整備手法への転換を図り、児童生徒数の長期推計によって将来を見据えた計画とし、改築や改修の方向性や優先順位等を設定し、予算の平準化とトータルコストの縮減を図りながら、児童生徒の安全性の確保や適切な教育環境の充実を図ることを目的に策定するものです。

3 計画期間

計画期間は2020年度（令和2年度）から2059年度（令和41年度）までの40年間とし、5年ごとに計画の見直しを行うことを基本とします。

また、我孫子市総合計画及び我孫子市公共施設等総合管理計画の見直しや給食施設のあり方、プール施設のあり方等の方針の策定状況により、必要に応じて本計画の改訂を行います。

4 対象施設

小学校13校、中学校6校の校舎、屋内運動場、武道場、給食施設、プール及びプール付属設備（軽易な建物は除く）を対象とします（計145棟、延床面積13.7万㎡）。

【図表 1-2 対象施設一覧】

2019年(R1年)5月1日現在

建築年度は、その施設の建物(倉庫、便所などの小規模な建物を除く)のうち最も古い建物の建築年度を表す。

名称	住所	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建築年度		児童生徒数(人)		学級数(学級)		
				西暦	和暦	通常学級 在籍者数	特別 支援	通常学級	特別 支援	
小学校	1 我孫子第一小学校(一小)	寿1丁目22番10号	20,097	6,887	1971	S46	511	28	18	6
	2 我孫子第二小学校(二小)	下ヶ戸610番地	22,322	5,625	1973	S48	388	30	15	5
	3 我孫子第三小学校(三小)	柴崎台3丁目3番1号	16,463	7,015	1975	S50	674	46	22	6
	4 我孫子第四小学校(四小)	白山3丁目2番1号	14,536	7,235	1965	S40	844	39	26	7
	5 湖北小学校(湖小)	中里95番地	23,977	6,541	1967	S42	335	25	12	4
	6 布佐小学校(布小)	布佐1217番地	18,454	5,918	1975	S50	168	31	6	4
	7 湖北台西小学校(西小)	湖北台8丁目17番1号	23,319	6,765	1970	S45	276	24	12	5
	8 高野山小学校(高小)	高野山198番地	18,059	6,670	1975	S50	573	34	19	6
	9 根戸小学校(根小)	つくし野4丁目17番1号	21,473	9,926	1976	S51	858	36	26	6
	10 湖北台東小学校(東小)	湖北台4丁目3番1号	28,546	6,541	1977	S52	273	21	12	4
	11 新木小学校(新小)	新木1460番地	27,496	5,979	1980	S55	419	35	15	6
	12 並木小学校(並小)	つくし野7丁目30番1号	26,342	7,265	1981	S56	346	15	13	3
	13 布佐南小学校(南小)	布佐平和台5丁目1番1号	25,572	5,408	1983	S58	160	9	6	2
小学校計			286,656	87,775			5,825	373	202	64
中学校	1 我孫子中学校(我中)	高野山537番地	33,010	9,801	1977	S52	847	37	24	6
	2 湖北中学校(湖中)	古戸300番地	36,907	8,087	1976	S51	400	4	12	1
	3 布佐中学校(布中)	布佐1301番地	20,588	8,077	1980	S55	198	12	6	3
	4 湖北台中学校(台中)	湖北台6丁目9番1号	29,792	8,311	1970	S45	299	20	9	4
	5 久寺家中学校(久中)	つくし野171番地	26,175	7,192	1975	S50	566	9	17	2
	6 白山中学校(白中)	白山3丁目7番3号	27,817	8,125	1979	S54	753	31	22	5
中学校計			174,289	49,593			3,063	113	90	21
小・中学校合計			460,945	137,368			8,888	486	292	85

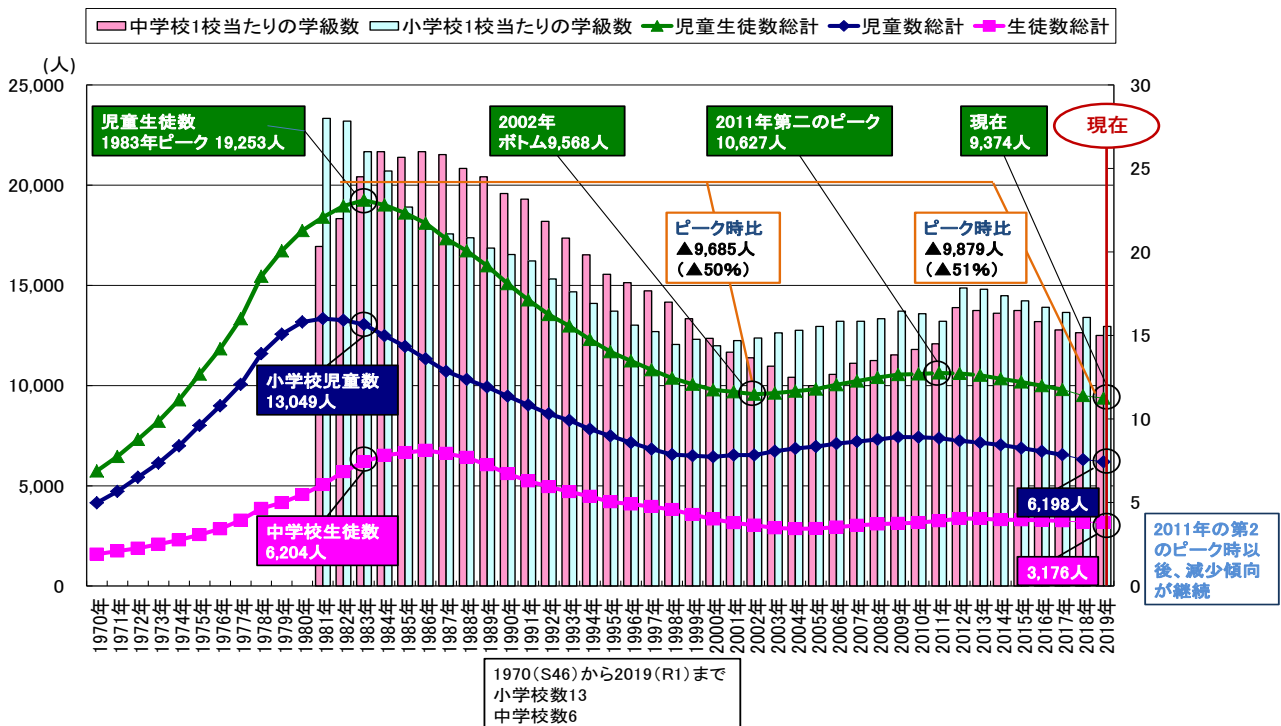
第2章 学校施設を取り巻く現状

1 児童生徒数の変化

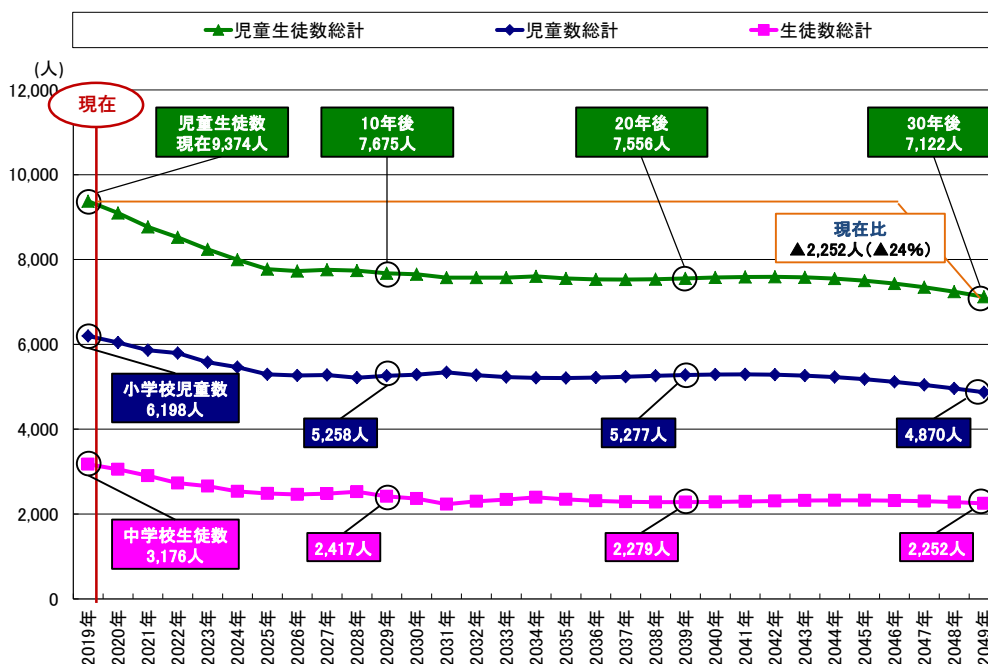
(1) 市全体

本計画の策定にあたり、学校施設のソフト面の状況の一つとして、児童生徒数の長期的な将来変化を押さえる必要があることから、今後30年間の児童生徒数について、コーホート要因法により将来推計を算出しました。

【図表 2-1 児童生徒数の推移（過去⇒現在）】



【図表 2-2 児童生徒数の将来推計（市全体）】

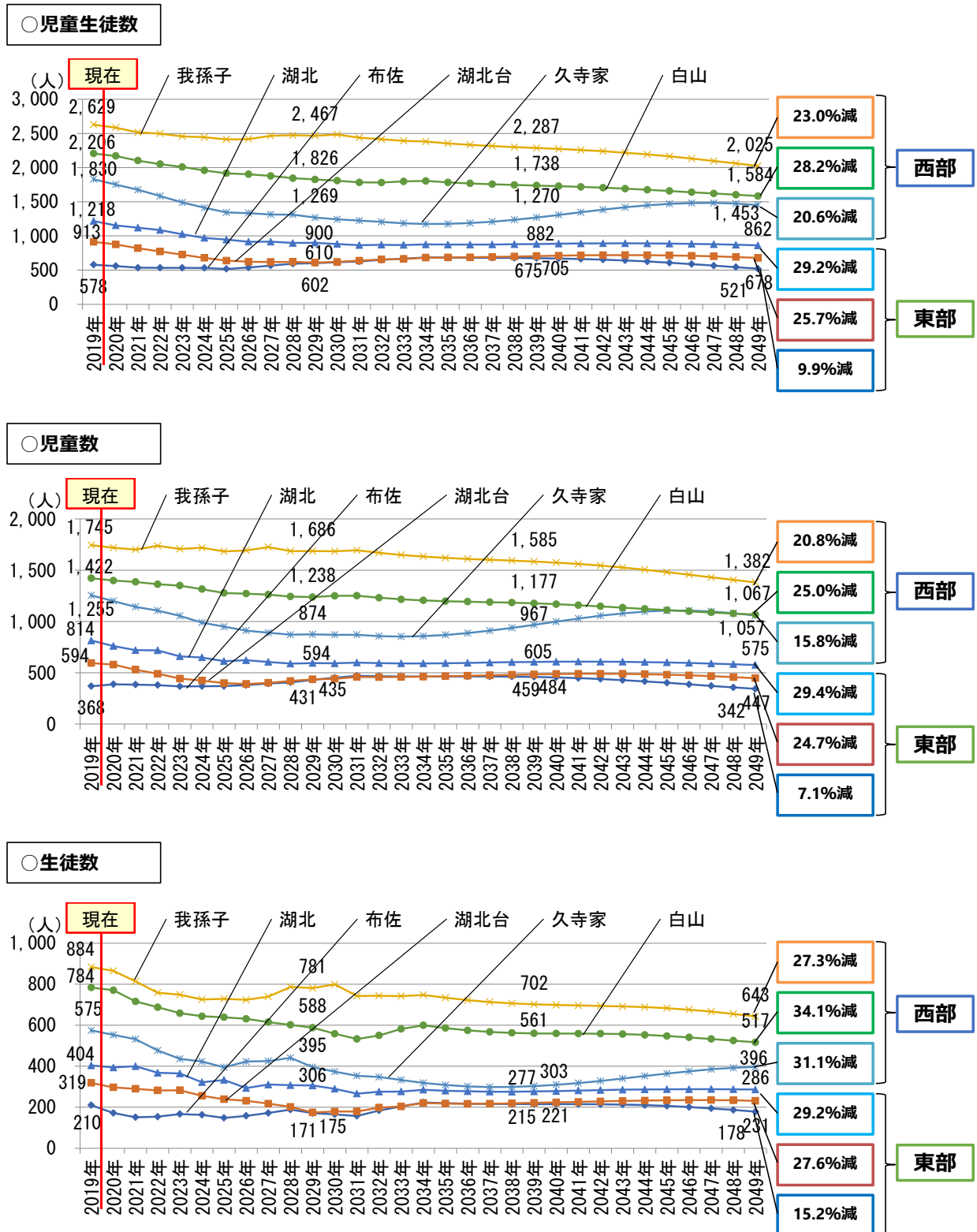


(2) 地域別・中学校区別

児童生徒数全体、小学校の児童数、中学校の生徒数のいずれも、規模の大きいものから我孫子中学校区、白山中学校区、久寺家中学校区、湖北中学校区、湖北台中学校区、布佐中学校区の順になっています。

西部の3中学校区（我孫子、久寺家、白山）は東部の3中学校区（湖北台、湖北、布佐）よりも規模が大きく、また、変化が各中学校区で全く異なります。

【図表 2-3 中学校区別の児童生徒数推計】



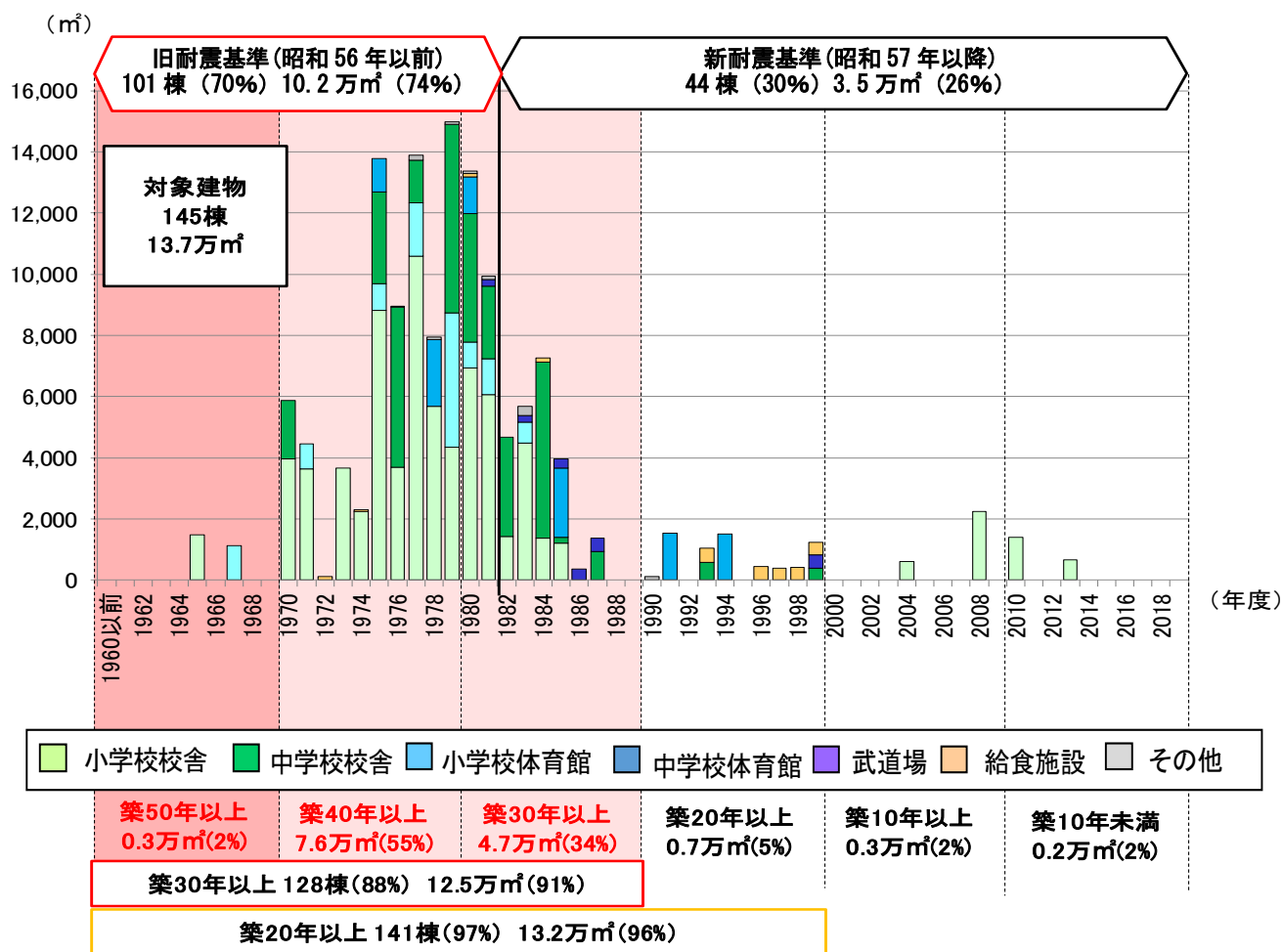
2 施設整備の実態

(1) 築年別整備状況

築30年以上の建物が127棟 12.5万㎡(91%)であり、老朽化が進んでいます。

特に建設が集中しているのが1975年(昭和50年)から1981年(昭和56年)で、この7年間に延101棟 8.3万㎡を整備しています。今後これらが一斉に改築・改修の時期を迎えることとなりますので、費用の平準化を検討する必要があります。

【図表 2-4 築年別整備状況】



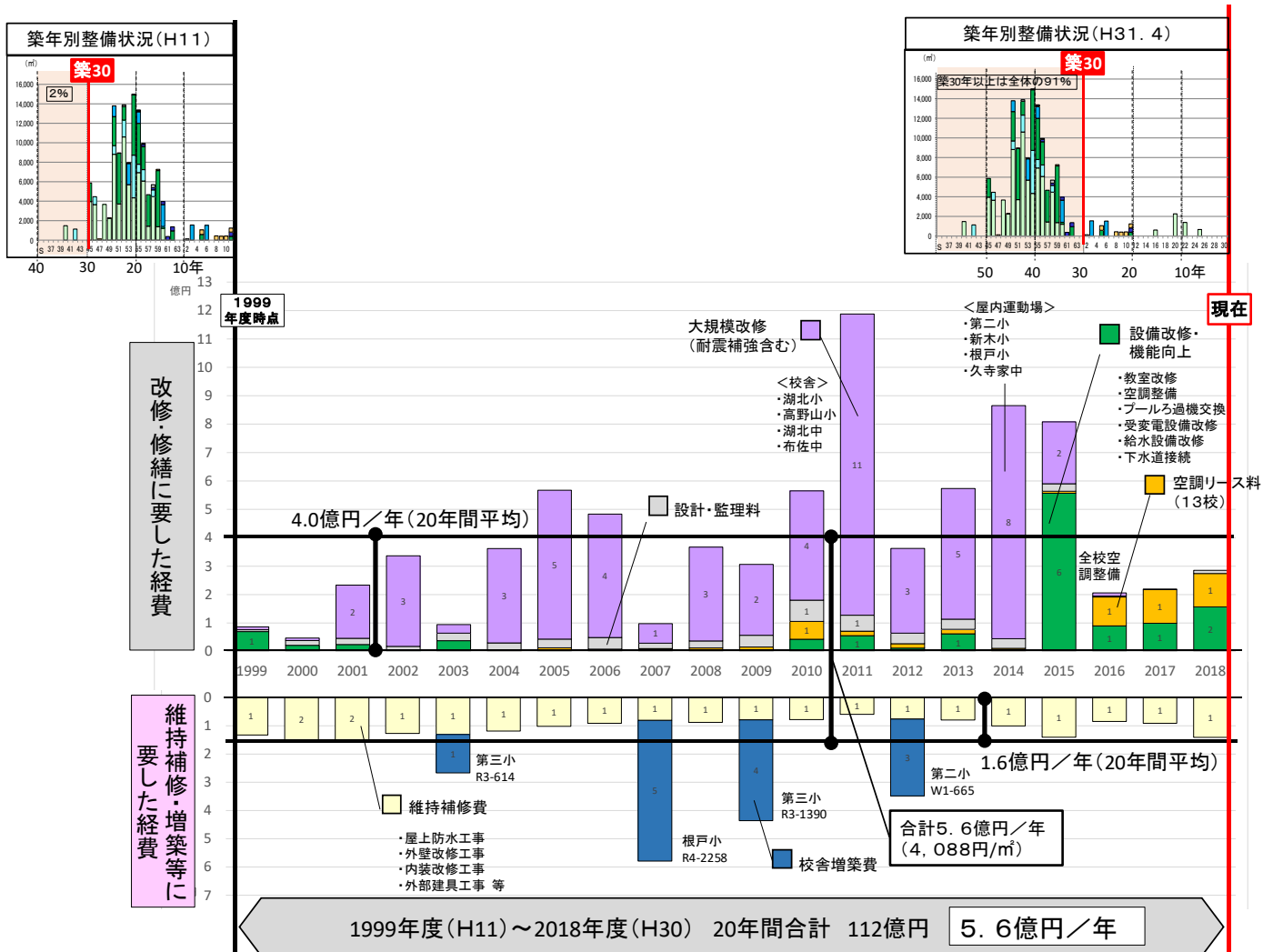
(2) これまでかけてきたコスト

1999年度(平成11年度)から2018年度(平成30年度)の20年間の事業費は、総額112億円、年平均5.6億円です。

目的別の内訳はグラフの通りです。これまで、耐震補強工事に併せて屋上・外壁の大規模改修とトイレの洋式化への改修を行ってきました。近年は、普通教室等の空調整備、設備の改修等の部分的な機能改善を進めています。そのほか、この期間にいくつかの校舎の増築を行いました。

以上のような大規模の整備のほかに、経常的には屋上防水工事や外壁改修工事、内装改修工事、外部建具工事等、年平均約1億円の維持補修費をかけています。

【図表2-5 これまでかけてきたコスト】



3 施設の劣化状況

建物情報一覧によって各建物の実態を把握し、課題を明らかにします。

(1) 躯体の健全性

改修にあたっては躯体部分が長期間の使用に耐えうることが必要ですが、構造耐力上主要な部分（柱、梁、床版、屋根版など）のコンクリート強度が著しく低い場合（13.5N/mm²※以下）は、変質、変状、施工時の信頼性などに影響があります。（文部科学省作成「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（平成27年4月）」による。）

過去に実施した耐震診断時のコンクリート圧縮強度をみると、13.5N/mm²以下である建物が3棟あります。これらは耐震補強をしてあるので耐震性に問題はありませんが、長寿命化には適さないといえます。

※N/mm²（ニュートンパー平方ミリメートル）とは、コンクリートの強度を表す単位で、文部科学省では13.5N/mm²以下の建物は、改修に多額の費用がかかるため、改築した方が経済的に望ましいとしています。

(2) 躯体以外の劣化状況

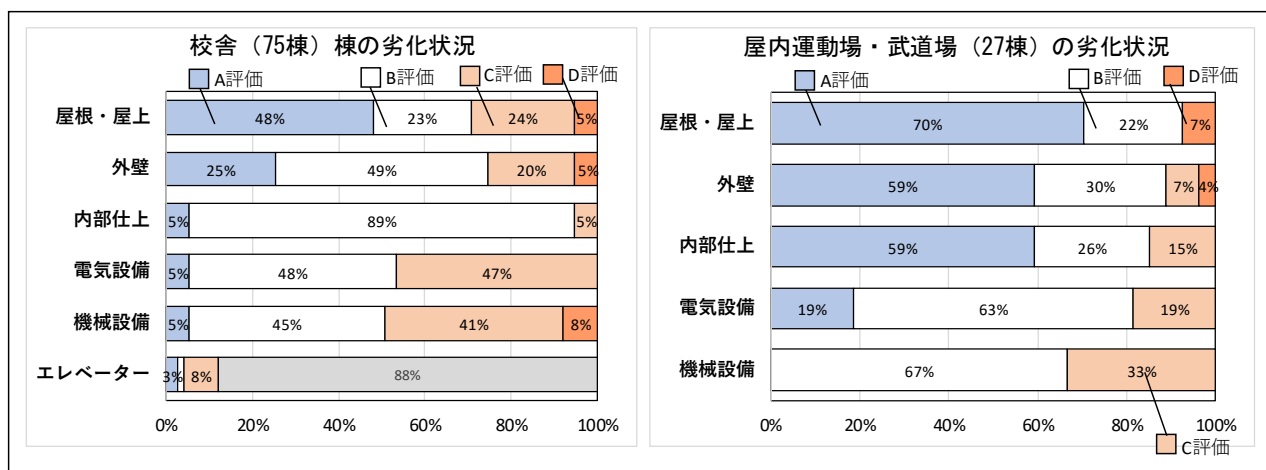
我孫子市公共施設保全計画（平成30年3月）では築年数やこれまでの改修履歴から、学校単位でのメンテナンスサイクルを把握していますが、本計画では、より詳細に建物ごとに5つの部位（屋根・屋上、外壁、内部仕上、電気設備、機械設備）、学校単位で5つの部位（エレベーター、プール、給水装置、受変電設備、グラウンド）に対して劣化状況を把握し、それぞれA B C Dの4段階で評価します。

評価結果をみると、施工後20年以上経過したものについて、広範囲の劣化が見られます。劣化が進み早急な対応が必要な部位（D評価の部位）がある建物が22棟あります。

【図表 2-6 評価基準】

	基 準		経過年数による目安
良好 劣化	A	概ね良好	標準耐用年数の半分以上
	B	部分的に劣化 (安全上、機能上、問題なし)	標準耐用年数以内
	C	広範囲に劣化 (安全上、機能上、低下の兆し)	標準耐用年数を超過
	D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を及ぼしている) (設備が故障し施設運営に支障をきたしている)	著しい劣化事象がある場合

【図表 2-7 評価結果】



中学校区	建物基本情報										構造躯体の健全性					躯体以外の劣化状況							整備水準			仕様									
	施設名	表示順	棟名	棟番号	用途区分	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		耐震安全性	長寿命化判定	調査年度	圧縮強度 (N/㎡)	試算上区分	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	(1000点満点)	エレベーター	給水装置	受変電設備	グラウンド	生活環境(トイレ)	学習環境(冷房化)	多目的トイレ	非構造部材	屋根・屋上仕様	外壁仕様				
									西暦	和暦																						基礎	診断	補強	共用
湖北中学校区	湖北小学校 6,541㎡	1	管理教室棟 R4-4120	016	校舎	RC	4	4,332	1977	S52	42	旧	済	済	2010	33.2	長寿命	A	A	B	C	C	75	C	C	A	C	III	III	III	シート	塗仕上			
		2	管理教室棟 R2-1040	026-1	校舎	RC	2	1,040	1977	S52	42	旧	済	-	2010	29.8	長寿命	A	A	C	C	C	62					-	III	-	III	シート	塗仕上		
		3	屋内運動場 S2-1136	015	体育館	S	2	1,136	1967	S42	52	旧	済	済														-	-	-	III	金属勾配	ALC		
		4	プール専用付属室 B1-18	020	その他	S	1	18	1977	S52	42	旧																-	-	-	金属勾配	金属パネル			
		5	プール専用付属室 B1-15	021	その他	S	1	15	1977	S52	42	旧																-	-	-	金属勾配	金属パネル			
		6	プール		その他			1,110	1969	S44	50	旧												B				-	-	-	-	-			
	新木小学校 5,979㎡	1	普通教室棟 R4-3087	001	校舎	RC	4	3,279	1980	S55	39	旧	済	済	2006	34.5	長寿命	A	A	B	B	B	84		A	C	C	III	III	I	シート	塗仕上			
		2	管理教室棟 R3-1805	011	校舎	RC	3	1,805	1980	S55	39	旧	済	済	2006	28.6	長寿命	A	A	B	B	B	84					III	III	III	シート	塗仕上			
		3	屋内運動場 S2-859	006	体育館	S	2	859	1980	S55	39	旧	済	済														III	-	III	III	金属勾配	ALC		
		4	プール専用付属室 S1-36	004	その他	S	1	36	1980	S55	39	旧																-	-	-	金属勾配	金属パネル			
		5	プール		その他			729	1980	S55	39	旧												G				-	-	-	-	-			
	湖北中学校 8,087㎡	1	管理教室棟 R4-1391	001-1	校舎	RC	4	1,523	1976	S51	43	旧	済	済	2010	27.3	長寿命	A	B	B	C	C	68		C	A	C	III	III	III	シート	塗仕上			
2		管理教室棟 R4-2285	001-2	校舎	RC	4	2,285	1976	S51	43	旧	済	済	2010	27.3	長寿命	A	B	B	C	C	68					III	III	III	シート	塗仕上				
3		教室棟 R4-2253	020	校舎	RC	4	2,253	1985	S60	34	新															III	III	I	アス保護	塗仕上					
4		屋内運動場 S2-1155	005	体育館	S	2	1,155	1978	S53	41	旧	済	済														III	-	I	III	金属勾配	金属パネル サイドイング			
5		武道場及び給食室 R4-71	023-2	武道場	RC	2	432	1999	H11	20	新																-	-	-	金属勾配	ALC- 打設し				
6		武道場及び給食室 R4-71	023-1	校舎	RC	4	388	1999	H11	20	新																-	-	-	金属勾配	ALC- 打設し				
7		武道場及び給食室 R4-71	023-3	校舎	RC	4	4	1999	H11	20	新																-	-	-	金属勾配	塗仕上				
8		プール専用付属室 W1-18	007	その他	W	1	18	1978	S53	41	旧																-	-	-	金属勾配	塗仕上				
9		プール専用付属室 W1-12	008	その他	W	1	12	1978	S53	41	旧																-	-	-	金属勾配	塗仕上				
10		プール専用付属室 W1-14	009	その他	W	1	14	1978	S53	41	旧																-	-	-	金属勾配	塗仕上				
11		プール専用付属室 W1-3	010	その他	W	1	3	1978	S53	41	旧																-	-	-	金属勾配	塗仕上				
12		プール		その他			820	1978	S53	41	旧													C			-	-	-	-	-				
布佐中学校区	布佐小学校 5,918㎡	1	管理教室棟 R4-1616	014-2	校舎	RC	4	1,783	1975	S50	44	旧	済	済	2003	13.5	要調査	B	C	B	C	C	56	C	C	A	C	III	III	I	シート	ALC			
		2	管理教室棟 R4-1784	014-1	校舎	RC	4	1,784	1975	S50	44	旧	済	済	2003	13.5	要調査	B	B	B	C	C	66					III	III	III	アス露出	塗仕上			
		3	管理教室棟 R1-17	014-3	校舎	RC	1	17	1982	S57	37	新															-	-	-	シート	塗仕上				
		4	教室棟 R3-1419	022	校舎	RC	3	1,419	1982	S57	37	新																I	III	I	アス保護	塗仕上			
		5	屋内運動場 S2-873	017	体育館	S	2	873	1979	S54	40	旧	済	済													III	-	-	III	金属勾配	サイドイング			
		6	プール専用便所 R1-18	019	その他	RC	1	18	1979	S54	40	旧																I	-	I	塗膜	塗仕上			
		7	プール専用更衣室 R1-12	020	その他	RC	1	12	1979	S54	40	旧																-	-	-	塗膜	塗仕上			
		8	プール専用更衣室 R1-12	021	その他	RC	1	12	1979	S54	40	旧																-	-	-	塗膜	塗仕上			
		9	プール		その他			757	1985	S60	34	新													B			-	-	-	-	-			
	布佐南小学校 5,408㎡	1	管理教室棟 R3-2096	001	校舎	RC	3	2,096	1983	S58	36	新																C	A	C	I	III	I	アス保護	塗仕上
		2	普通教室棟 R3-2097	002	校舎	RC	3	2,186	1983	S58	36	新																		I	III	I	アス保護	塗仕上	
		3	普通教室棟 R3-2097	002-2	校舎	RC	3	192	1983	S58	36	新																		I	III	I	アス保護	塗仕上	
		4	屋内運動場 S2-691	003	体育館	S	2	691	1983	S58	36	新																I	-	I	金属勾配	ALC			
		5	屋内運動場 S2-187	005	体育館	S	2	187	1983	S58	36	新																I	-	I	金属勾配	ALC			
		6	プール専用付属室 S1-56	004	その他	S	1	56	1983	S58	36	新																-	-	-	アス保護	塗仕上 CB			
7		プール		その他			752	1982	S57	37	新													A			-	-	-	-	-				
布佐中学校 8,077㎡	1	管理教室棟 R4-4202	012	校舎	RC	4	4,202	1980	S55	39	旧	済	済	2010	25.7	長寿命	A	A	B	B	B	84		B	A	C	III	III	III	シート	塗仕上				
	2	教室棟 R3-583	017	校舎	RC	3	583	1993	H5	26	新																-	III	-	シート	塗仕上				
	3	教室棟及び武道場 R3-1366	014-1	校舎	RC	3	949	1987	S62	32	新																I	III	I	アス露出 金属勾配	塗仕上				
	4	屋内運動場 R2-1522	018	体育館	RC	2	1,522	1994	H6	25	新																I	-	I	金属勾配	塗仕上				
	5	教室棟及び武道場 R3-1366	014-2	武道場	RC	3	417	1987	S62	32	新																I	III	I	アス露出 金属勾配	塗仕上				
	6	給食室 S4-85	019	給食センター	S	4	404	1997	H9	22	新																-	-	-	シート	塗仕上				
	7	プール		その他			921	1981	S56	38	旧													G			-	-	-	-	-				

4 今後の維持・更新コスト

既存施設の数と面積を維持・更新する場合の今後のかかるコストについて、修繕・改修サイクルや目標使用年数の設定によって3通り試算します。

(1) 長期修繕計画に従い築60年まで使う場合【第1案】

我孫子市公共施設保全計画に基づいて作成された学校ごとの長期修繕計画に従って対象部位のみの修繕を行うものです。

長期修繕計画は、対象部位の安全確保と維持管理を目的とするもので、施設の機能向上・機能付加に係るものを対象としていないため、建物としては築60年で建替えることを想定します。

50年間の整備費用は、年間13.6億円。建替えは330千円/㎡により算定しています。

直近20年間は、年間4.7億円。その後建替えのピークを迎えます。

(2) 機能向上を行い築80年まで使う場合【第2案】

施設を長く使っていくため、長期修繕計画では対象としていない部位（外部建具、内装等）の改修と、教室間仕切、施設のバリアフリー化等の機能向上への対応を行い、建物としては築80年まで使って建替えることを想定します。

50年間の整備費用は、年間16.1億円

直近20年間は、年間13.4億円

外部建具・内装改修・トイレ改修等は117千円/㎡、建替えは330千円/㎡により算定しています。

建替えの時期が第1案に比べ20年先送りできます。また、その時期に躯体の健全性が確認できれば、更に長く使っていくことも想定できます。

第1案、第2案とも、建設が集中した時期の建物によって費用が集中しているため、費用の平準化を図る必要があります。

(3) 建替えまたは機能向上を図り平準化を図る場合【第3案】

長寿命化改修によって、劣化した部位の機能回復と新たに求められる機能への対応を合せて行います。建物が古くて改修よりも建替えの方がコストメリットが高い場合は建替えとします。

50年間の整備費用は、年間15.1億円

直近20年間は、年間12.3億円

長寿命化改修は170千円/㎡、建替えは330千円/㎡、中規模改修は80千円/㎡により算定しています。

3案の比較によってコスト縮減と平準化の効果が見込める第3案を整備の方向性とします。

ただし、既存施設の数と面積をそのまま維持・更新する場合を想定しているため、このままでは過去の財政ライン（5.6億円/年）の2.7倍程度のコストが必要となります。

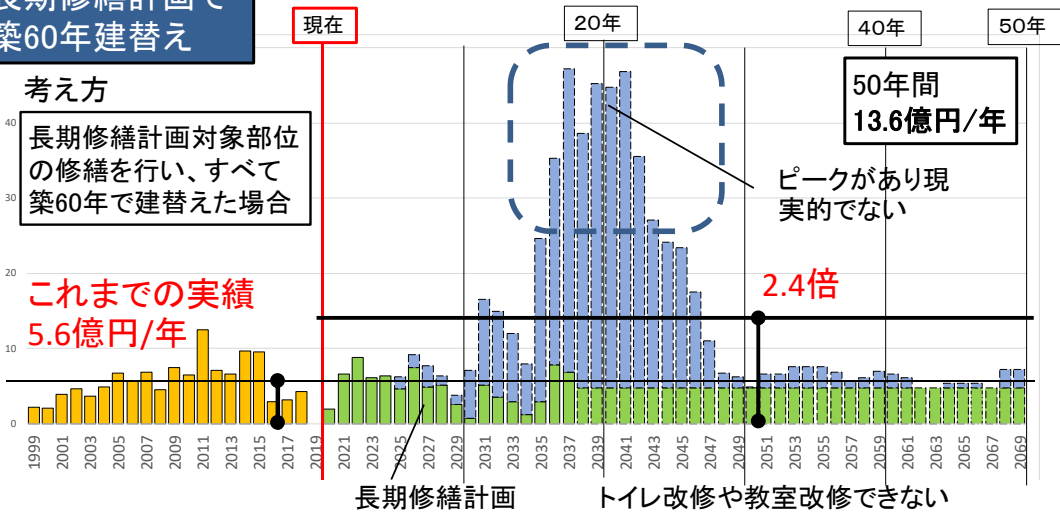
【図表 2-9 今後の維持・更新コストのシミュレーション】

第1案

長期修繕計画で
築60年建替え

考え方
長期修繕計画対象部位
の修繕を行い、すべて
築60年で建替えた場合

これまでの実績
5.6億円/年



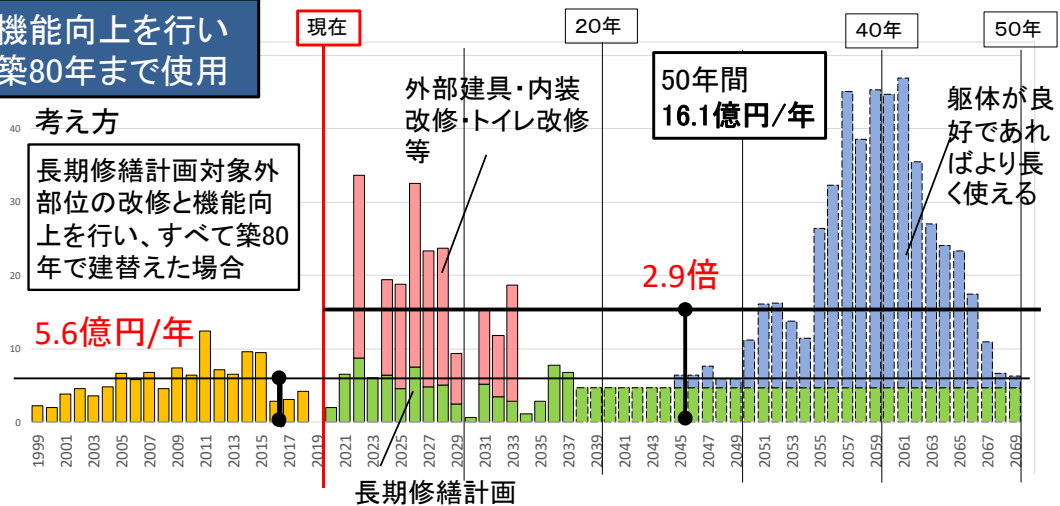
長期修繕計画 トイレ改修や教室改修できない

第2案

機能向上を行い
築80年まで使用

考え方
長期修繕計画対象外
部位の改修と機能向上
を行い、すべて築80
年で建替えた場合

5.6億円/年



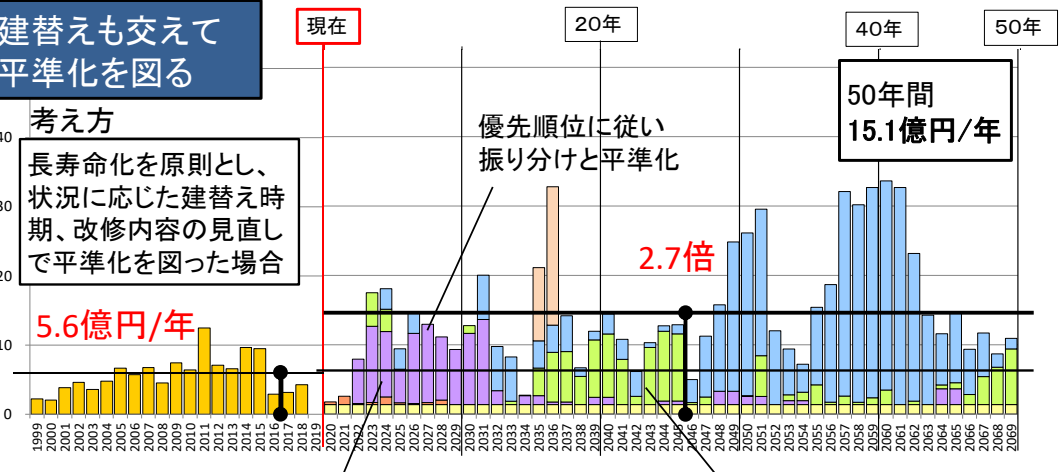
長期修繕計画

第3案

建替えも交えて
平準化を図る

考え方
長寿命化を原則とし、
状況に応じた建替え時
期、改修内容の見直し
で平準化を図った場合

5.6億円/年



<p>長寿命化改修の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 躯体補修 		<p>機能向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開口部改修(サッシ交換) ・ 内部改修(用途変更・諸室構成の見直し含む) ・ 機能向上に伴う設備システム変更・機器交換(配管・配線類含む) ・ ユニバーサルデザイン ・ 防災・防犯・トイレ改修 ・ 省エネ化・高耐久改修 	<p>中規模改修の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防水改修(断熱化) ・ 外壁改修(断熱化) ・ 電気設備機器交換 ・ 給排水設備機器交換 ・ 空調機器交換 等
<p>機能回復</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防水改修(断熱化) ・ 外壁改修(断熱化) ・ 電気設備機器交換 ・ 給排水設備機器交換 ・ 空調機器交換 等 	<p>機能回復</p>			

第3章 学校施設の目指すべき姿

今後、児童生徒数の大幅な減少が予測されており、施設規模の適正化が課題となっています。また、学校施設に対する需要の変化が生じてきています。

本市でも、平成28年度に策定した公共施設等総合管理計画では今後40年間で現在の規模のまま、全ての公共施設を更新しようとした場合、不足するコストを延べ床面積に換算すると18.5%が更新できないと推計されています。学校施設は、公共施設において約63%と多くの割合を占めており、施設の長寿命化だけでなく、複合化や再編等、将来の人口や社会動向の変化に対応することを見据えた学校施設の目指すべき姿を検討する必要があります。

1 目指すべき姿

(1) 安全・安心な学校施設づくり

学校施設は、子どもたちの学習の場、生活の場であるとともに、災害発生時には、地域住民の避難所となる役割を果たすことから、老朽化する施設を予防保全等により計画的に整備し、安全安心な学校施設づくりを進めます。

(2) 教育・学習環境の充実

教育環境に求められる機能は、時代の変化により多様化しています。子どもたちにとって良好な教育環境の維持・向上を図りながら、多様な学習活動のニーズに対応するとともに、教職員の職場環境の向上にも配慮した施設とします。

(3) 小中一貫教育の推進

我孫子市では、『ふるさと我孫子』を愛し、誇りに思う子ども（郷土愛）、「確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども（未来を拓く力）」、「自分に自信を持ち、自他を大切にしている子ども（輝く心）」の育成をめざして、市内の全中学校区において小中一貫教育を推進しています。今後も小中一貫教育のさらなる充実を図り、義務教育9年間をつなぐ「Abi☆小中一貫カリキュラム」の実施、学びの資源や地域人材の活用に必要な環境整備を進めます。

(4) 将来必要な施設規模・機能を考慮した効率的な老朽化対策

学校施設の維持管理や更新等に当たっては、本市の財政状況を踏まえて、長寿命化によりライフサイクルコストを縮減し、持続可能な学校施設を目指します。

また、児童生徒数の将来予測や社会動向の変化に対応し、学校施設に求められる機能も踏まえた上で、施設規模の適正化や他の公共施設との複合化・共用化を検討し、効果的・効率的な施設整備を進めます。

(5) 地域拠点としての学校施設づくり

学校施設は、地域の身近な公共施設であり、そこに通う子どもたちや地域住民がコミュニティを形成する拠点となることから、その役割を果たすことができるよう、保護者や地域住民等の意見も踏まえて環境整備を図っていきます。

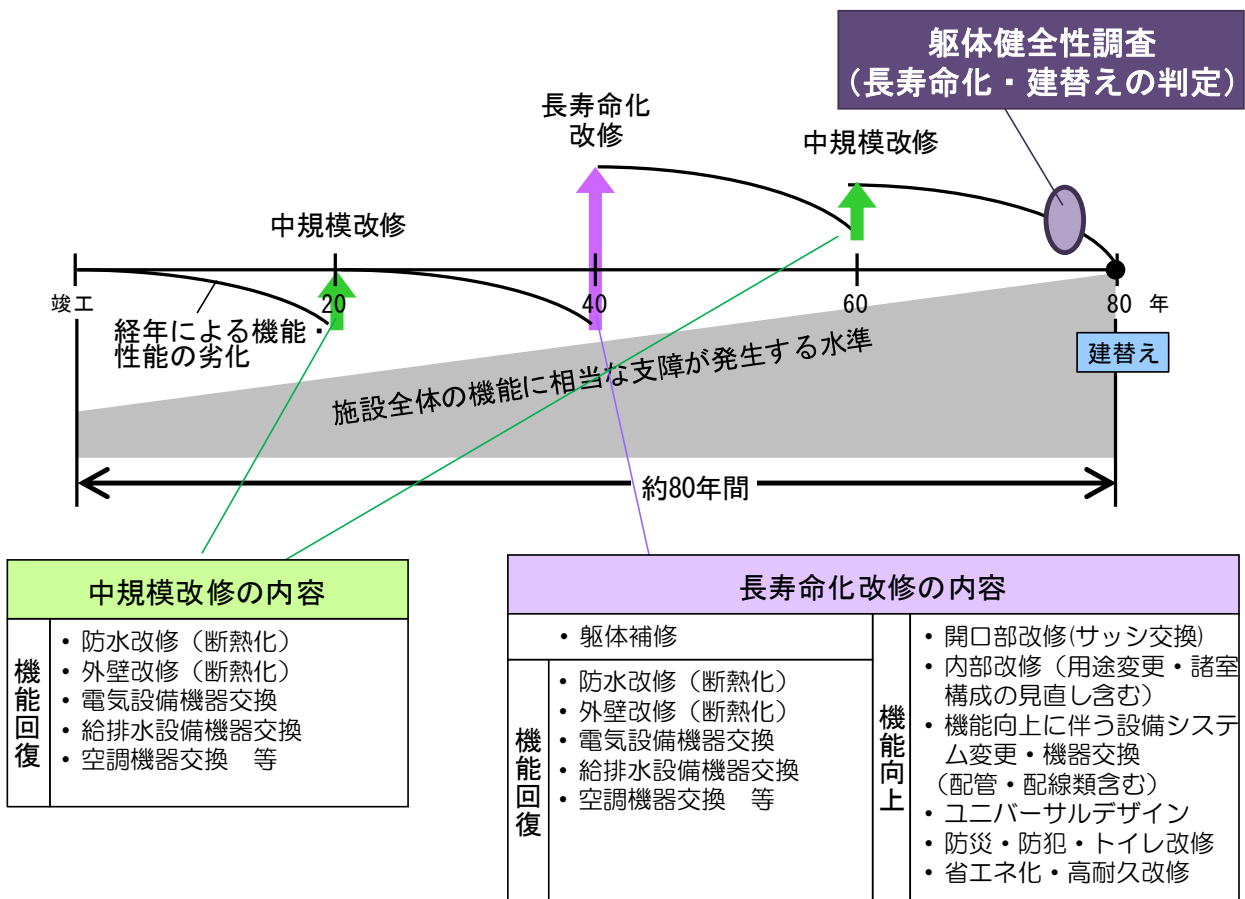
第4章 施設整備の基本方針

施設の老朽化、安全対策の課題を解決するため、施設整備に関する基本的な方針を定めます。

1 計画的保全による施設の長寿命化

構造躯体の健全性が確認できた施設については、改修によって機能回復・機能向上を図ることで、より良い状態で長く施設を使っていきます。継続的に劣化状況を確認し、計画的な保全を行います。

【図表 4-1 長寿命化の考え方】



第5章 今後整理すべき学校施設の課題と方向性

学校施設の目指すべき姿の実現に向けて、以下の課題が明らかになっています。

- 児童生徒数の減少に応じた施設規模の見直し・諸室等の活用方法の検討
- 新たな学習形態への対応
- 施設の老朽化、安全対策
- 教育・学習環境の維持・向上

1 将来変化への対応

(1) 適正規模の検討基準の明確化

我孫子市では今まで、学校適正規模を示すことをしてきませんでした。児童生徒数の減少、学校規模の不均衡等の現状を鑑みて、適正規模の検討を始める基準を設定します。なお、検討する際には、子どもたちの教育環境を最優先に考えること、学校と地域との連携を考えること、将来の児童生徒推計を見据えて考えることの3つの視点を重点に置くこととします。

我孫子市における学校の適正規模

小学校…各学年2学級以上、全体で12学級以上24学級以下（各学年2学級～4学級）

中学校…各学年3学級以上、全体で9学級以上24学級以下（各学年3学級～8学級）

※学級編制については、国が定める基準に準じて、小学校では1年生は35人学級、2年生から6年生までは40人学級、中学校では各学年40人学級としています。

検討手順

児童生徒数の将来推計と毎年度の推計調査を参考に、就学前の子どもの数の把握を行い、次の3段階に区分します。

- ① 我孫子市の適正規模を下回ることが予想される場合・・・> 検討準備段階
- ② 複数学年で適正規模を下回ることが予想される場合・・・> 検討段階
- ③ 全学年で単学級が予想される場合・・・・・・・・・・・・・・・・・・> 速やかに検討

②段階の規模になる学校を把握した場合、今後の児童生徒数の推計を確認し、教育総務部及び市長部局の関係課と協議を始めます。

③段階の規模になる学校を把握した場合、今後の児童生徒数の推計を確認したうえで、適正規模等検討委員会（仮称）を設置し、保護者、地域への速やかな周知を行います。

（現在は、分離型の小中一貫教育を進めています。今後は地域の特性に合わせた、一体型の小中一貫校等を含め広く検討します。）

（２）布佐中学校区における学校施設のあり方の検討

布佐中学校区では（１）で示した適正規模において、全学年で単学級が予想される状況となっていることから、2020年度（令和2年度）から保護者や地域住民の方などを含め広く意見を募り、今後の布佐中学校区において最適な教育環境となり、地域コミュニティの形成も図られる学校施設のあり方を検討していきます。

（３）湖北台中学校区における学校施設のあり方の検討

湖北台中学校区でも（１）に示した適正規模において、今後10年以内に適正規模を下回る事が予想されることから、（１）の②に示す検討段階となった場合は、施設の整備内容も再検討することとし、併せて地域内にあるUR住宅の今後の動向も注視しながら学校施設のあり方を検討していきます。

2 プール施設のあり方の見直し

現在、小中学校のプール施設は、19校全ての学校に整備されています。しかし、校舎と同様、建築後の経年により、今後、大規模改修や改築に多額の費用を要すると想定されます。このため、様々な手法の中から最適な方法を用いて管理・運営を工夫する必要があるため、選択肢として考えられるものを以下に示します。

(1) 現在の施設を引き続き利用

現行通りプールを整備・維持する場合、授業時間の柔軟化や他の場所への移動の負担がない、夏期休業中のプール開放が可能であるなどのメリットがあります。

一方で、前述した費用負担や維持管理を含めた教職員の負担、天候・季節に制限がある、などがデメリットになります。

(2) 民間施設を活用

民間施設を活用した場合、一定の費用は必要ですが、大規模改修や改築など一度に多額の費用を負担することがなく、予算の平準化が図れます。また、天候や季節に左右されず、専門的な指導が受けられ、教職員の負担が軽減します。さらに、プールの撤去まで含めると学校敷地に余裕が生まれることなどがメリットになります。

一方で、市内には受け入れ可能な民間施設が少なく、規模にも限りがあるので、大規模校での実施は困難です。また、移動に伴う負担とともに、授業時間が移動時間に費やされます。さらに、プール開放ができないことなどがデメリットになります。

(3) 隣接校での共同利用

隣接校で共同利用した場合、(1)と比較し、維持管理の費用を削減できるメリットがあります。

一方で、隣接校までの距離が長い場合は実施が困難であることや、小中で共同利用する場合、水深に配慮する必要があることなどがデメリットになります。

上記のほか、県外他市では、市民プールを利用して水泳指導を実施している事例もあります。仮に本市でも、市民プールが再建される時は、水泳指導での利用を検討するなど、多くの手法から最適な手法を選択します。

以上の手法などを踏まえ 2020 年度（令和 2 年度）から試行的な実施を含め、今後のプールのあり方について検討を進めます。選択にあたっては、**児童生徒の水泳指導の継続を第一に考え**、学校の状況や費用対効果などを総合的に勘案して判断します。

3 給食施設のあり方の見直し

学校給食施設については、子どもたちのより良い教育環境の整備、給食の充実、食育の推進、安全衛生管理の徹底を図るため、児童生徒数の将来推計を踏まえて、自校、親子、センターの各方式による提供方法を含めた給食のあり方を検討していきます。

なお、本計画策定段階で明らかになった給食施設の劣化状況、目標使用年数、建替え又は改修時期、施設規模等を考慮し、現在の課題や提供方法の違いによるメリット・デメリットを明らかにした上で、トータルコストの比較により整備費用縮減の視点も加味した検討を進め、2020年度（令和2年度）に給食施設のあり方の方針を定めていきます。

ただし、校舎に付属する給食施設については、劣化状況を確認し、校舎の改修時期とあわせて実施することでコスト削減が図られる場合は、同時に改修を実施します。

第6章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の考え方

1 目標使用年数及び改修周期

対象となるRC造の建物は、公共施設等総合管理計画の基本方針の一つである「施設の安全確保と維持管理の効率化」の考え方に基づき、長寿命化を図ります。この場合、使用年数は、鉄筋コンクリート造で60年、鉄骨造で45年を標準とし、今後も安全に資産として活かしきることを念頭に、損傷が軽微な段階で予防的な修繕を行うとともに計画的な大規模改修を図ります。これは、減価償却資産の耐用年数等に関する省令における法定耐用年数（鉄筋コンクリート造校舎で47年、鉄骨造屋内運動場で34年）を超えて延伸させるものです。

さらに、築50年前後を迎える時期を目途に、躯体等の健全性が確保できることを前提として、最大80年までの使用に向けた検討を行います。

一小と四小の校舎の一部は、1971年（昭和46年）の建築基準法の改正（帯筋間隔等が強化された。）よりも古い校舎であり、劣化も進んでいることから、建替え（築60年目標）の方向とします。

2 改修等の整備水準

長寿命化改修※にあたっては、各部位の耐久性を高めるとともに、省エネ対応や多様な学習形態による活動が可能となる環境整備に応じることで、今後、30～40年間、施設を良好な状態で使っていける整備水準とします。

基準とする整備水準は次のとおりとしますが、整備年度の財政状況や個別の施設の状況に応じて改修内容を決定します。

<基準とする整備水準>

- ・屋上外壁防水
- ・省エネルギー型照明（LED）改修
- ・給排水衛生設備改修
- ・消防用設備改修
- ・バリアフリー機能改修
- ・非構造部材の耐震化

※長寿命化改修とは、既存の建物を長期的に使用するため、建物や設備の不良箇所・劣化箇所の改修だけでなく、耐久性を高めることに加え、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる改修工事です。建替えと比べると、解体量が大幅に削減され、工期も短縮されるため、4割程度のコストダウンにつながるとされています。

【図表 6-1 長寿命化改修の整備水準】

部 位	改修メニュー（整備水準）				（修繕水準）	既存の整備水準	
	高			低			
部別別仕様	屋上防水	外断熱保護防水 (断熱材) (既存撤去)	外断熱露出防水 (断熱材) (既存の上)	露出防水 (内断熱) (既存の上)	防水層の損傷部の補修程度	アスファルト防水 保護コンクリート シート防水・塗膜防水	
	屋根	ステンレス製屋根 葺き替え	ガルバリウム鋼板製 葺き替え	カラー鉄板 葺き替え	再塗装		
	外壁	外断熱パネル	外壁塗装 (光触媒フッ素樹脂塗装) 内断熱	外壁塗装 (複層塗材) 断熱なし	既存のまま	複層塗材 断熱なし	
	外部開口部 (窓)	サッシ交換 (Low-e ペアガラス)	サッシ交換 (撤去工法) (複層ガラス)	サッシ交換 (カバー工法) (複層ガラス) サッシ交換 (カバー工法) (強化ガラス)	シーリング打替え 開閉調整程度	アルミサッシ	
	内部仕上げ (教室)	内装の 全面撤去・更新 (下地共)	床補修 壁・天井撤去・更新 (下地共)	床補修 壁・天井塗替え 防災・防犯対応	既存のまま	床:木質フローリング 壁:塗装 天井:石膏ボード 内部建具(間仕切)	
	内部仕上げ (調理室)		ドライ化	既存機能の回復		湿式	
	内部仕上げ (トイレ)	内装の全面撤去・更新 ドライ化 節水型器具(洋式化) (配管とも更新) 照明・器具 人感センサー	内装の全面撤去・更新 節水型器具(洋式化)	床補修 壁・天井塗替え 既存のまま	既存のまま	床:塩ビシート 壁:塗装(ボード) 天井:ボードEP塗装 和・洋混合	
	給排水 設備	給水	受水槽+高架水槽 耐震型高性能ポリエチレン管	受水槽+増圧ポンプ 塩化ビライニング鋼管	直結増圧方式 耐衝撃性塩化ビニル管		
		排水 (配管材)	耐火二層管	鋼管	塩化ビニル管		
	照明設備	照明人感センサー	LED		既存のまま	蛍光灯(HF)	
空調設備	中央方式(ダクト) 全熱交換型換気		ヒートポンプ式マルチエアコン 一般型換気	既存の修繕	空調改修済 換気扇		
機能向上	教育・学習 環境の向上	多目的スペースの設置 少人数学習スペース	学年ごとの共通スペース (ホール、ラウンジ) メディア ルーム ランチ ルーム カウンセリング ルーム	職員室の機能向上 特別教室の機能向上	特別支援教室の 機能向上		
	施設環境の 向上	内装の木質化	校庭の芝生化	トイレのドライ化 (洋式化)		トイレ改修 (1室のみ和式)	
	省エネルギー	屋上緑化	自然換気システム 雨水・中水利用	高効率照明(LED) 高効率エアコン 人感センサー (照明、ドア)	節水型衛生器具 自然エネルギー設備 (太陽光発電等)		
	バリアフリー	エレベーターの設置	スロープ等による 段差解消	多目的トイレの設置		トイレ改修済(部分)	
	防災・防犯	管理用インターホン 防犯カメラの設置	非常用発電機の設置 受水槽の災害飲料対応	災害時用燃料 (プロパン)(石油) 災害時用トイレ	非構造部材の耐震化 (照明等)		

第7章 長寿命化の実施計画

1 改修等の優先順位付けと実施計画

(1) 優先順位の考え方

建物の詳細実態把握より、築年数、躯体の健全性、躯体以外の劣化状況、トイレの改修実績を考慮し、施設の整備計画を整理しました。

長寿命化改修や建替えを行わない建物の劣化には、中規模改修や部位改修で対応します。

施設整備に関する補助金や起債については最大限活用することとし、単年度負担の一般財源額を最小限に抑えることとします。

(2) 今後10年間の整備計画(案)

2020年度(令和2年度)から2029年度(令和11年度)までの整備計画(案)は下表のとおりです。

なお、各年度の財政状況や、P16に示す小規模校として適正規模の検討が今後予想される湖北台中学区区については、整備内容を見直す可能性があります。

【図表 7-1 今後10年間の整備計画(案)】

	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)
長寿 命化改修			我孫子中 ・教室棟R4-2815 ・教室・管理棟R4-2781 ・給食室S4-93				久寺家中 ・管理・普通教室棟R4-2994 ・普通・特別教室棟R4-2266		第三小 ・管理教室棟R4-2522 ・給食室R1-124 ・教室棟R3-1328 ・教室棟R2-45	
					湖北台西小 ・管理教室棟R3-2764 ・普通教室棟R3-614 ・普通教室棟R3-761 ・普通教室棟R3-760 ・普通教室棟R3-651 ・渡り廊下S-134		湖北台中 ・教室棟R4-3170 ・管理教室棟R3-1207 ・管理教室棟R3-696 ・管理教室棟R3-1410 ・渡り廊下S2-60		湖北台東小 ・管理教室棟R4-2542 ・管理教室棟R4-1878 ・給食室R1-186 ・管理教室棟R4-621	
建替 え					第四小 ・教室棟R3-585 ・教室棟R3-756 ・教室棟R3-139 ・教室棟R3-1201					
中規 模改修				並木小 ・管理棟R3-525 ・管理棟R3-1785 ・特別・普通教室棟R4-3527	第二小 ・特別・普通教室棟R3-747 ・管理教室棟R4-3098					
部 位改修 (補助あり)		我孫子中 体育館照明		久寺家中 相談室空調 白山中 相談室空調 湖北中 相談室空調	全校の 図書室空調	湖北台中 柔剣道場外壁		中学校全校の 職員室空調	小学校全校の 職員室空調	
部 位改修 (補助なし)		我孫子中 体育館屋根								
	第二小 給水設備	第三小 給水設備	湖北中 給水設備	布佐小 給水設備						
	湖北小 プール濾過機	湖北中 プール濾過機	第二小 プール濾過機	第三小 プール濾過機	第四小 プール濾過機	並木小 プール濾過機	我孫子中 プール濾過機			
事業費	1.56億円	2.38億円	6.51億円	11.49億円	13.29億円	9.23億円	14.40億円	11.59億円	9.78億円	9.13億円

※整備計画(案)の事業費には設計や工事監理などの費用は含まれておりません。

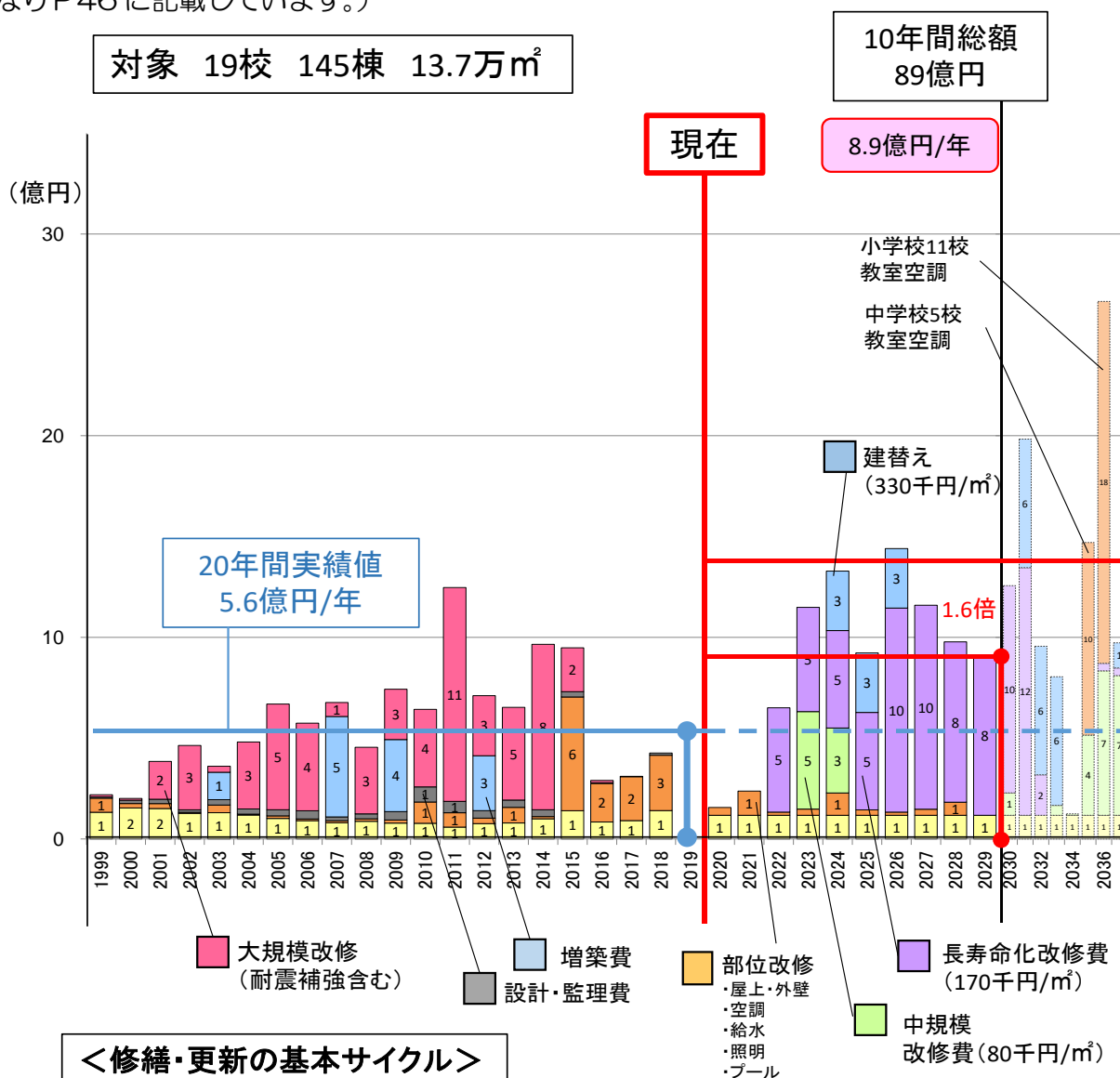
2 長寿命化のコスト見通し

(1) 長期コストシミュレーション

50年間の整備費用は、年間13.0億円（実績値の2.3倍の乖離）

直近10年間は、年間8.9億円（実績値の1.6倍の乖離）

なお、布佐中学校区の3校の整備計画は、適正規模・適正配置の方向性が明らかになるまで試算額の集計から除外しています。（既存の布佐中学校区3校を現在の施設規模で更新した場合は、753億円となりP46に記載しています。）

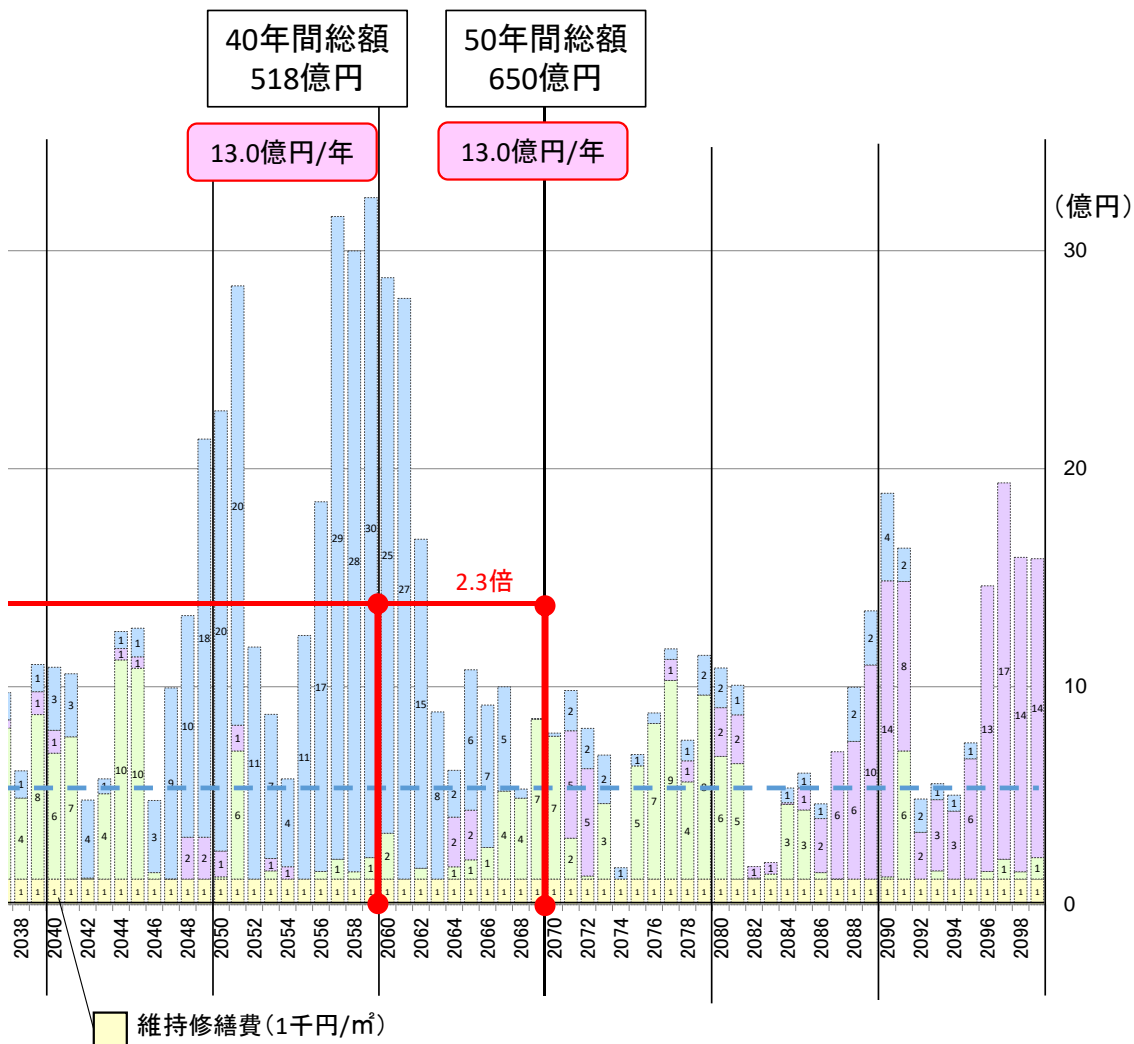


<修繕・更新の基本サイクル> 改修・修繕の履歴により見直し

- ・**建替え 築80年(3年間)**
(築1971～1982年(90棟88,990㎡)は建替え時期を振り分け(S・W造))
- ・**長寿命化改修 築40年(2年間)**
(過去に大規模改造を実施済の棟は改修内容の見直し)
- ・**中規模改修 築20・60年(1年間)**

10年間の対応範囲				コスト	89億円
建替え	4棟	2,681㎡	—	9億円	
長寿命化改修	24棟	15,895㎡	機能回復 機能向上	56億円	
中規模改修 (機能回復)	5棟	10,067㎡	建替え、長寿命化改修は含まない	8億円	
躯体以外の部位	16棟		屋上・外壁、空調、給水、照明、プール	4億円	
維持修繕	グラウンドやプール等の修繕、軽微な修繕		1,000円/㎡	12億円	

- 30年～40年後に建替えの山ができる。
- 適正規模・適正配置による面積削減により平準化を図っていく必要がある。



長寿命化改修の内容		中規模改修の内容	
	<ul style="list-style-type: none"> • 躯体補修 		<ul style="list-style-type: none"> • 防水改修 (断熱化) • 外壁改修 (断熱化) • 電気設備機器交換 • 給排水設備機器交換 • 空調機器交換 等
機能回復	<ul style="list-style-type: none"> • 防水改修 (断熱化) • 外壁改修 (断熱化) • 電気設備機器交換 • 給排水設備機器交換 • 空調機器交換 等 	機能回復	<ul style="list-style-type: none"> • 防水改修 (断熱化) • 外壁改修 (断熱化) • 電気設備機器交換 • 給排水設備機器交換 • 空調機器交換 等
機能向上	<ul style="list-style-type: none"> • 開口部改修 (サッシ交換) • 内部改修 (用途変更・諸室構成の見直し含む) • 機能向上に伴う設備システム変更・機器交換 (配管・配線類含む) • ユニバーサルデザイン • 防災・防犯・トイレ改修 • 省エネ化・高耐久改修 		

第8章 継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

学校施設の基本情報、工事改修履歴等の一元管理を行い、施設の長寿命化を計画的に進めることとします。

また、定期的を実施している建築基準法第12条に基づく定期点検結果や公共施設包括管理業務による巡回点検記録等を活用し、施設の老朽化状況の状態を常に把握し、予防保全型の施設管理に活用していきます。

2 推進体制等の整備

学校施設を所管する教育委員会が中心となって推進します。他の施設との複合化等の検討の場合は、資産経営課をはじめとする関係部署と連携し、検討を進めます。

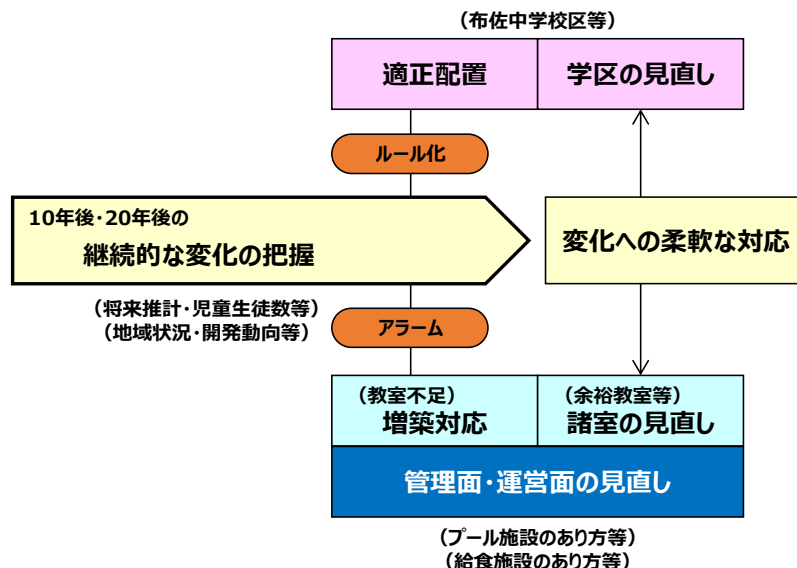
また、本市は2012年度（平成24年度）から公共施設包括管理業務委託として、日常及び定期の点検・保守・整備を専門事業者に委託しています。これにより、点検に基づく計画的な補修や改修等の対策の着実な実施はもとより、実施履歴のデータベースを活用することで、改修すべき部位の一元把握と優先順位付けによる適正な維持管理につなげます。

3 フォローアップ

児童生徒数や地域の開発動向など学校施設を取り巻く状況を常に把握し、将来変化に柔軟に対応していきます。

プール施設及び給食施設のあり方の方針等の策定状況、着手時期等に合わせて適宜計画を見直し、継続的な改善に取り組むことで、長寿命化にとどまらない将来変化への対応策によって、財政負担のさらなる縮減・平準化を図るとともに、教育・学習環境の維持・向上をめざしていきます。

【図表 8-1 今後の進め方】



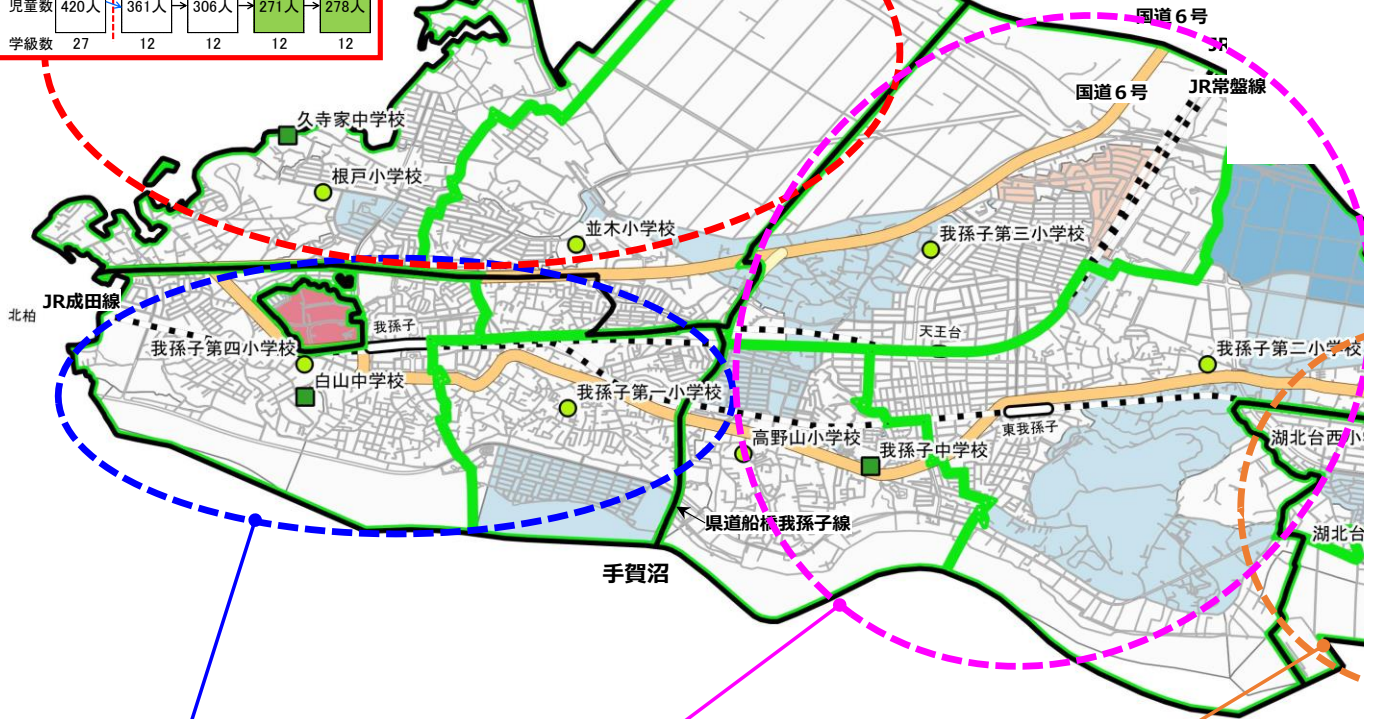
参考資料

- 1 学校施設の配置状況と将来変化
- 2 各学校の配置図と今後 10 年間の整備内容
- 3 児童生徒数の将来推計
- 4 布佐中学校区 3 区を加えた長寿命化のコスト見通し

1 学校施設の配置状況と将来変化

(ピーク) S62	久寺家中学校				
生徒数	575人	395人	303人	396人	
学級数	16	11	9	12	
(ピーク) S58	根戸小学校				
児童数	894人	567人	696人	779人	
学級数	26	18	20	24	
(ピーク) S57	並木小学校				
児童数	361人	306人	271人	278人	
学級数	12	12	12	12	

・西部地域の3中学校区のいずれの学校も、現在は一部（我孫子第四小、根戸小）を除き適正規模。
・今後も適正規模を維持する。



(ピーク) S59	白山中学校				
生徒数	784人	588人	561人	517人	
学級数	22	16	15	15	
(ピーク) S56	我孫子第一小学校				
児童数	539人	392人	443人	409人	
学級数	18	12	13	12	
(ピーク) S57	我孫子第四小学校				
児童数	883人	846人	734人	658人	
学級数	26	24	23	19	

(ピーク) H2	我孫子中学校				
生徒数	884人	781人	702人	643人	
学級数	24	21	18	18	
(ピーク) S59	我孫子第二小学校				
児童数	418人	514人	477人	366人	
学級数	13	16	16	12	
(ピーク) H21	我孫子第三小学校				
児童数	720人	696人	586人	558人	
学級数	21	20	18	18	
(ピーク) S58	高野山小学校				
児童数	607人	476人	522人	457人	
学級数	18	16	18	14	

(ピーク) S59	湖北台中学校				
生徒数	319人	175人	221人	231人	
学級数	9	6	6	6	
(ピーク) S56	湖北台西小学校				
児童数	300人	243人	264人	233人	
学級数	12	11	12	9	
(ピーク) S56	湖北台東小学校				
児童数	294人	193人	220人	214人	
学級数	12	6	7	6	

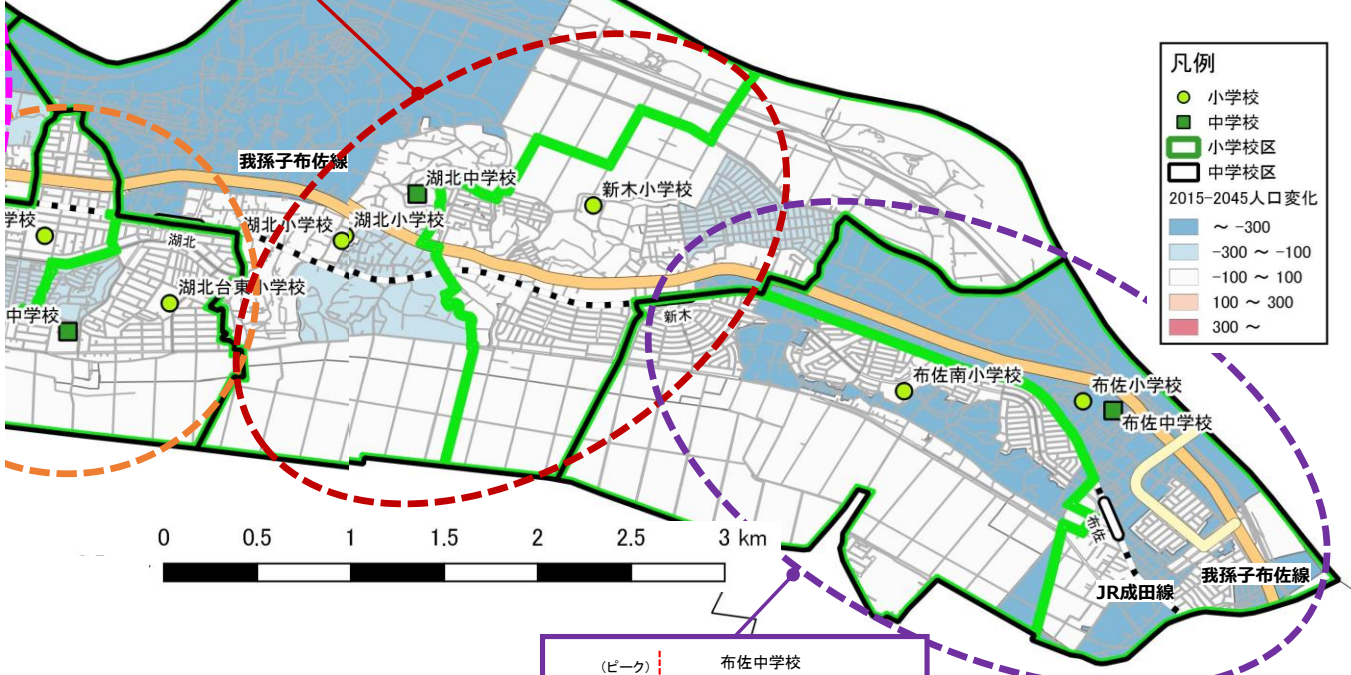
・湖北台中学校区は現在適正規模。
・将来、3校全てが小規模校化する。
・児童生徒数の変化を注視しながら、アラームが鳴った時点で適正規模・適正配置を検討。

・湖北中学校区は現在適正規模。
・今後も適正規模を維持する。

(ピーク) S61	湖北中学校				
生徒数	498人	404人	306人	277人	286人
学級数	26	12	9	9	9
(ピーク) S56	湖北小学校				
児童数	460人	360人	292人	286人	253人
学級数	29	12	11	12	12
(ピーク) S59	新木小学校				
児童数	624人	454人	302人	319人	322人
学級数	25	15	12	12	12

区分	各学年	全体
小学校	2～4学級	12～24学級
中学校	3～8学級	9～24学級

段階	基準	
①我孫子市の適正規模を下回ることが予想される	検査準備段階	小学校：12学級（300人）未満 中学校：9学級（300人）未満
	検査段階	小学校：7～10学級（250人未満） 中学校：4～7学級（200人未満）
②複数学年で適正規模を下回ることが予想される	検査段階	小学校：6学級（200人）以下 中学校：3学級（110人）以下
		速やかに検討



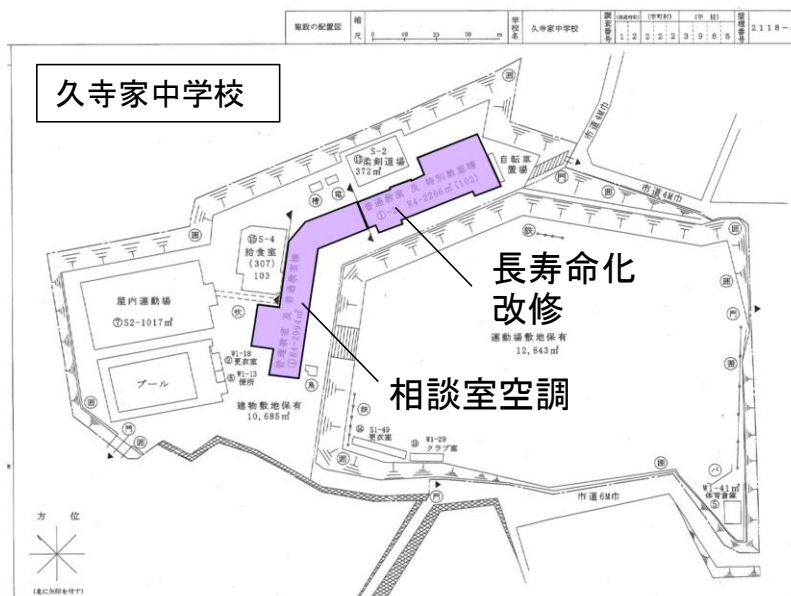
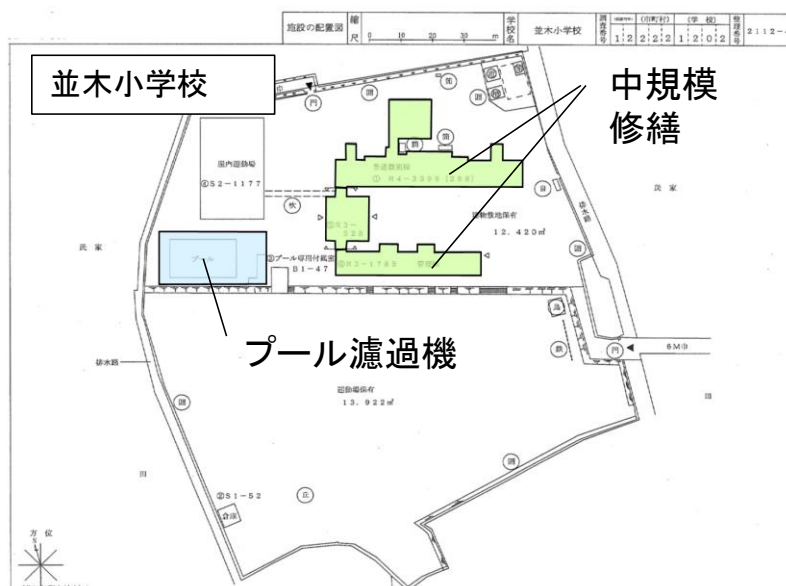
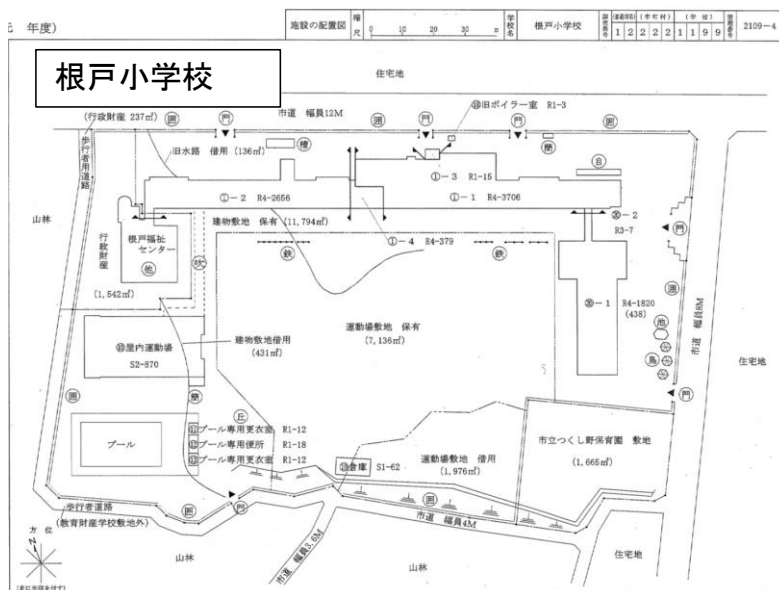
(ピーク) H5	布佐中学校				
生徒数	333人	210人	171人	215人	178人
学級数	19	6	6	6	6
(ピーク) S57	布佐小学校				
児童数	377人	199人	218人	238人	163人
学級数	25	6	10	10	6
(ピーク) H3	布佐南小学校				
児童数	599人	169人	213人	221人	180人
学級数	17	6	6	7	6

・布佐中学校区は既に現在、3校とも小規模。
・将来的にも一部変動の大きい学校もあるが、小規模のまま推移。
・早急に適正規模・適正配置の検討が必要。

- 令和11年度以降の学級数の算出においては、児童生徒数の推計値から通常の学級数を算出した。特別支援学級数については考慮していない。
- 学級編制については、国が定める基準に準じて、小学校では1年生は35人学級、2～6年生は40人学級、中学校では各学年40人学級とした。いずれも小数点第1位以下は切り上げた。

2 各学校の配置図と今後 10 年間の整備内容

(1) 久寺家中学校区

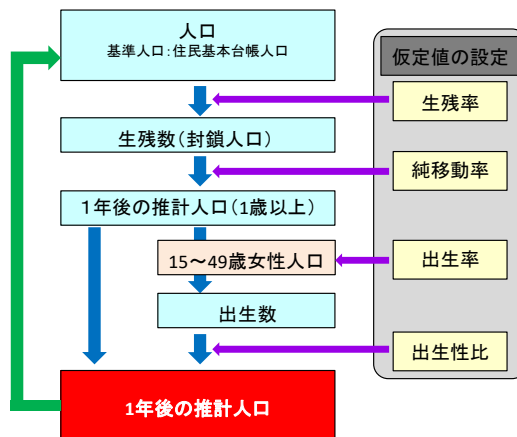


3 児童生徒数の将来推計

推計方法

- 2019（令和元）年5月1日現在の住民登録による学齢人口（0～49歳）を基準人口として、各学区・各年齢・各年度ごとに2049（令和31）年までの30年間、コーホート要因法を用いて推計した。
- 2019（令和元）年から2025（令和7）年までの7年間については、我孫子市教育委員会が推計した児童生徒数を基準として人口推計を行った。この間の6～11歳の各人口は、各小学校の児童数の合計値、12～14歳の各人口は、各中学校の生徒数を各中学校別の公立中学校進学率で除することで算出した。

コーホート要因法による人口推計の流れ



○死亡に関する仮定値（生残率）

- 死亡に関する仮定値（生残率）は、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）「日本の将来推計人口（全国）」（平成29年7月）の男女、年齢別将来生命表の死亡率に2015（平成27）年の生命表の千葉県と全国の死亡率の比を乗じて補正することにより、我孫子市の死亡率とし、これを1から減じることで、生残率の仮定値とした。

○出生に関する仮定値

- 出生に関する仮定値のうち、出生率については、社人研「日本の将来推計人口（全国）」（平成29年7月）の女性の年齢各歳別出生率に厚生労働省の統計である人口動態保健所・市町村別統計の平成20～24年の5歳階級別出生率の我孫子市と全国の比を乗じて補正することにより、我孫子市の出生率の仮定値とした。
- 出生に関する仮定値のうち、出生性比については、社人研「日本の地域別将来推計人口（都道府県・市区町村）」（平成29年7月）の我孫子市の仮定値を用いた。

○転出入に関する仮定値（純移動率）

【推計1における仮定】

- 転出入に関する仮定値（純移動率）は、2015（平成27）～2019（令和元）年の各5月1日現在の住民登録による学齢人口（0～49歳）から、**各学区別、各年齢別、各年（4年分）の純移動率**を算出し、その平均値を各年齢別の純移動率の仮定値とした。
- ただし、布佐中学校区については、2015（平成27）年→2016（平成28）年の純移動者数が他の3か年の純移動者数の数倍と大きかったことから、2016（平成28）～2019（令和元）年の3年分の純移動率の平均値を各年齢別の純移動率の仮定値とした。

【推計2における仮定】

- **各学区単位での純移動率で将来推計を行うと誤差が大きく出すぎることも考えられる**ことから、2015（平成27）～2019（令和元）年の各5月1日現在の住民登録による学齢人口（0～49歳）から、**市全体での、各年齢別、各年（4年分）の純移動率**を算出し、その平均値を各年齢別の純移動率の仮定値とした。

【推計3における仮定】

- **社人研「日本の地域別将来推計人口（都道府県・市区町村）」（平成29年7月）の我孫子市の純移動率の仮定**を用いた。

○児童生徒数の算出

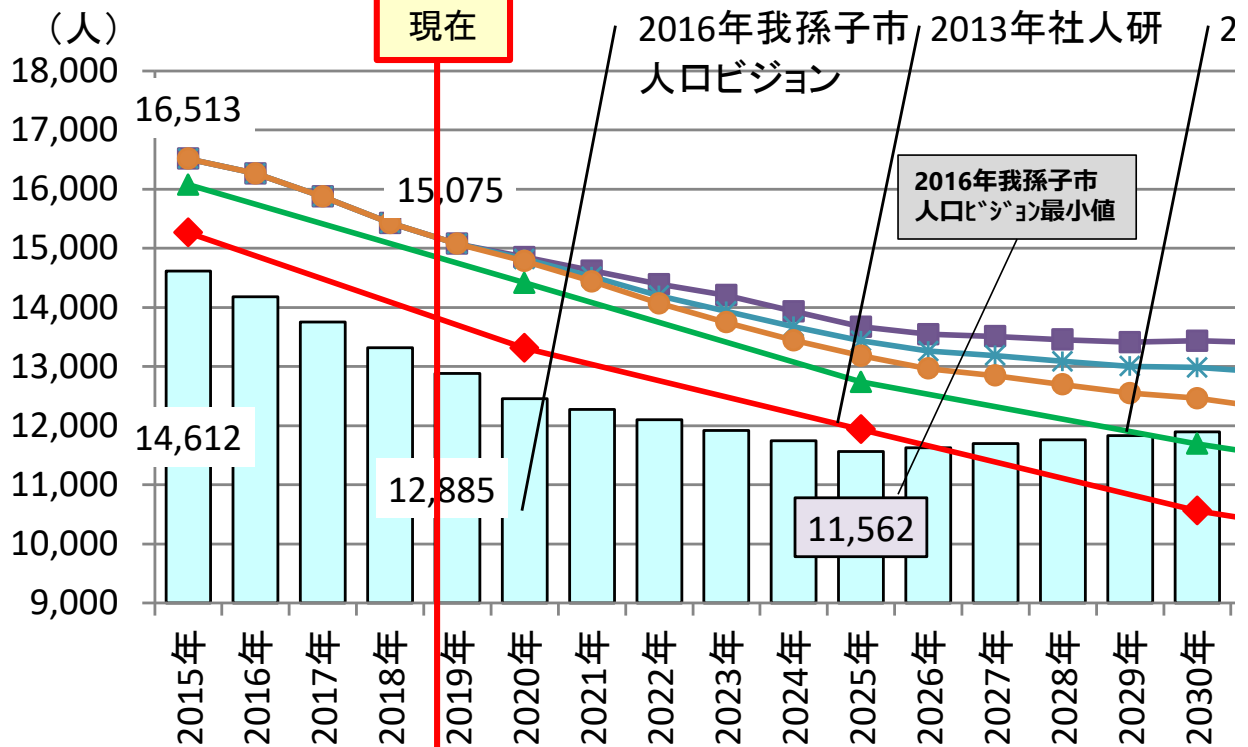
- 児童数の算出においては、各学齢人口の公立小学校入学率を100%と仮定した。
- 生徒数の算出においては、2015（平成27）～2019（令和元）年の中学校別の公立中学校進学率の平均値を、各学校の各学齢人口の進学率と仮定した。

○学級数の算出

- 学級数の算出においては、児童生徒数から通常の学級数を算出した。特別支援学級数については考慮していない。
- 学級編制については、小学校では1年生は35人学級、2～6年生は40人学級、中学校では各学年40人学級とした。いずれも小数点第1位以下は切り上げた。

市全体の年少人口推計結果

○各種推計結果の比較



令和	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
西暦	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
2016年我孫子市人口ビジョン	14,612	14,180	13,748	13,316	12,885	12,453	12,275	12,097	11,918
2013年社人研	15,265					13,309			
2018年社人研	16,072					14,412			
推計1	16,513	16,263	15,870	15,427	15,075	14,848	14,617	14,390	14,205
推計2	16,513	16,263	15,870	15,427	15,075	14,816	14,516	14,196	13,930
推計3	16,513	16,263	15,870	15,427	15,075	14,781	14,438	14,067	13,745

令和	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26
西暦	2036年	2037年	2038年	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年	2044年
2016年我孫子市人口ビジョン	12,695	12,784	12,874	12,963	13,053	13,038	13,023	13,008	12,994
2013年社人研					9,167				
2018年社人研					10,360				
推計1	13,620	13,591	13,570	13,550	13,524	13,486	13,434	13,364	13,278
推計2	12,987	12,959	12,933	12,903	12,862	12,806	12,732	12,636	12,521
推計3	12,045	11,981	11,925	11,870	11,812	11,751	11,681	11,599	11,506

※2016年我孫子市人口ビジョン及び2013年社人研の2015年以降は推計値。

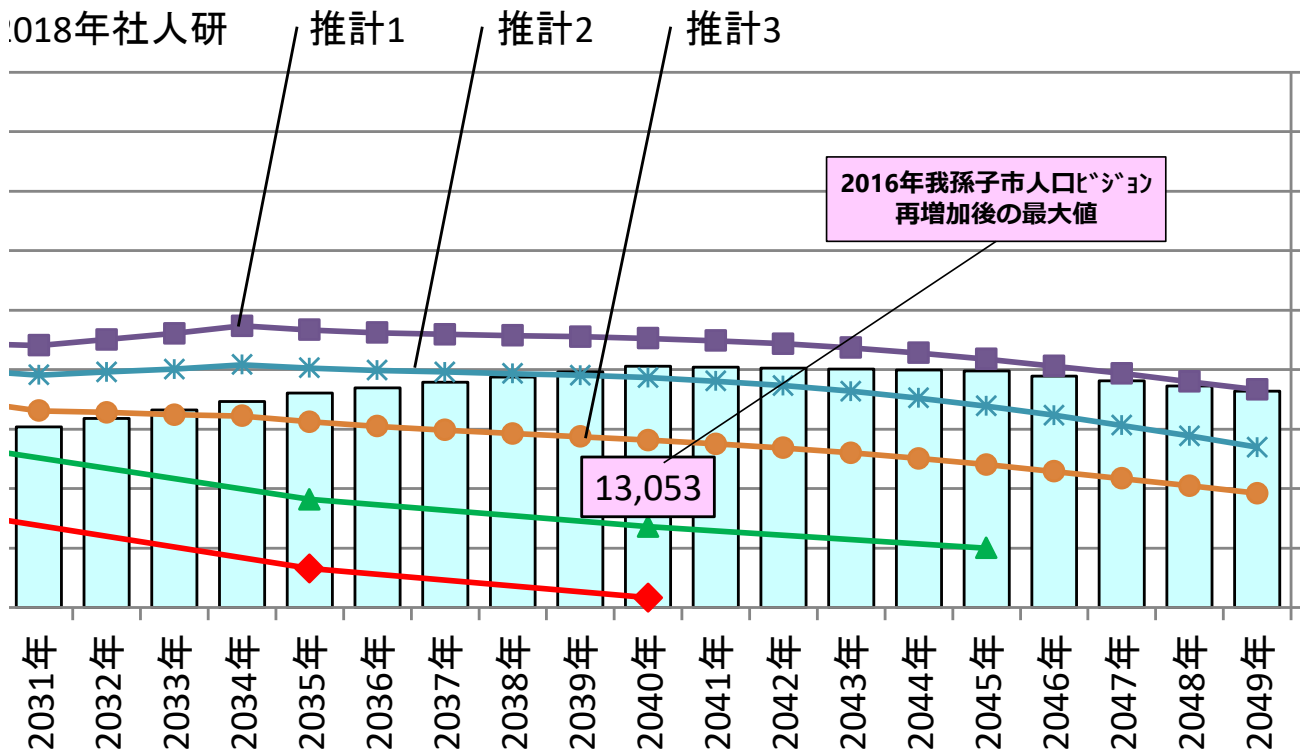
※2016年我孫子市人口ビジョンの2015年以降は推計値。

※推計1～3の2015年～2019年は住民基本台帳人口(5月1日現在)。

※推計1: 学校区別純移動率による推計値。

※推計2: 市全体の純移動率による推計値。

※推計3: 2018年社人研準拠純移動率による推計値。



R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
11,740	11,562	11,629	11,696	11,763	11,830	11,898	12,039	12,180	12,322	12,463	12,605
	11,936					10,560					9,655
	12,736					11,690					10,818
13,930	13,672	13,544	13,508	13,453	13,412	13,434	13,407	13,506	13,609	13,735	13,667
13,675	13,435	13,259	13,184	13,085	13,001	12,983	12,907	12,960	13,005	13,080	13,026
13,440	13,182	12,964	12,844	12,692	12,550	12,460	12,306	12,280	12,241	12,221	12,121

R27	R28	R29	R30	R31
2045年	2046年	2047年	2048年	2049年
12,979	12,894	12,809	12,724	12,639
10,000				
13,176	13,059	12,933	12,799	12,662
12,385	12,231	12,063	11,883	11,694
11,401	11,289	11,170	11,046	10,918

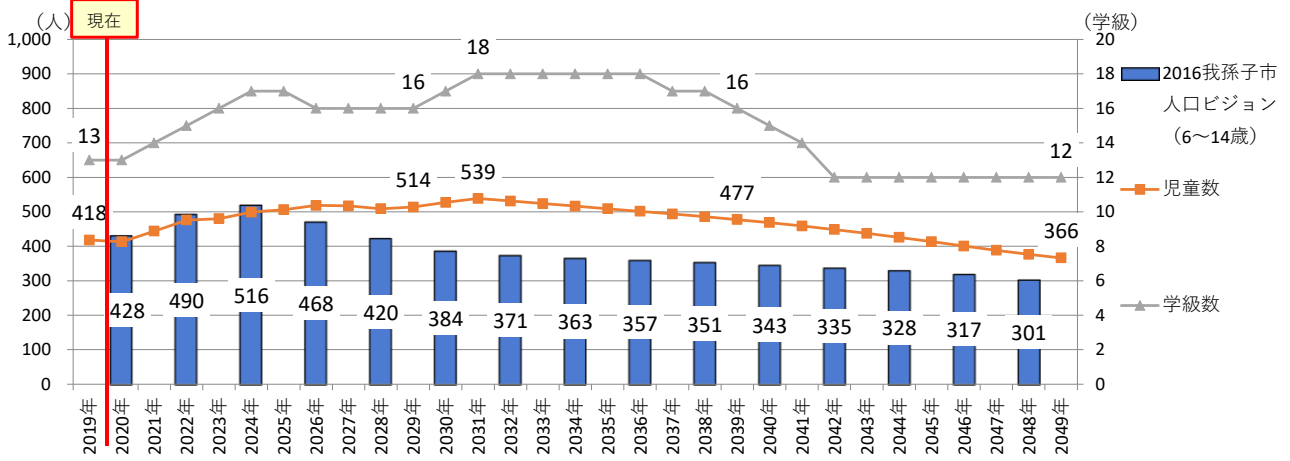
○採用する推計値について

- 「2016年我孫子市人口ビジョン」による年少人口（0～14歳）の将来推移と2018年の社人研、及び今回実施した転出入による仮定値3種類による推計1～3を比較検討した結果、最も実態に即していると考えられる推計2（市全体での平均純移動率）を採用することとした。

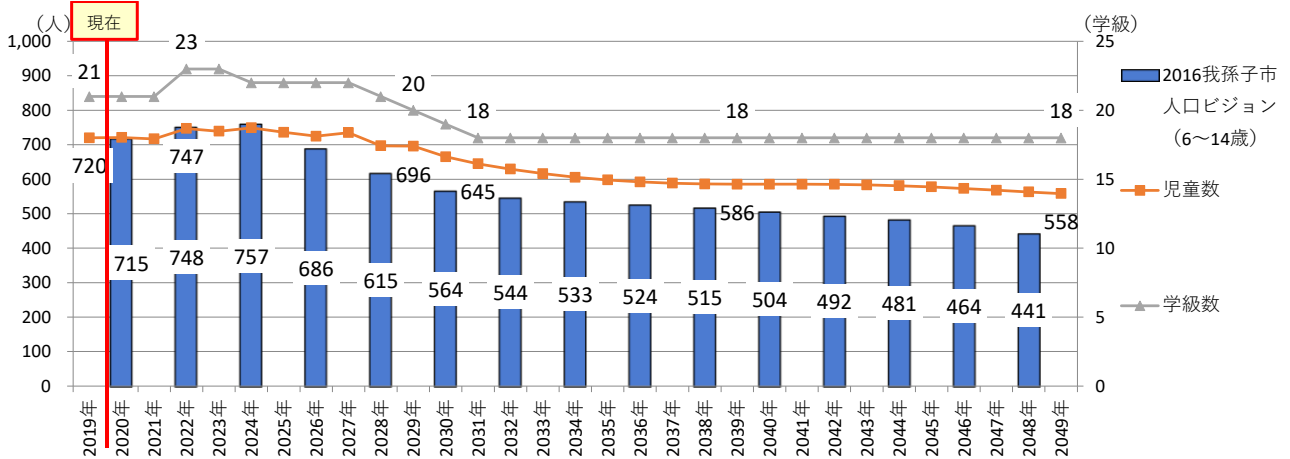
我孫子中学校区

○我孫子第二小学校

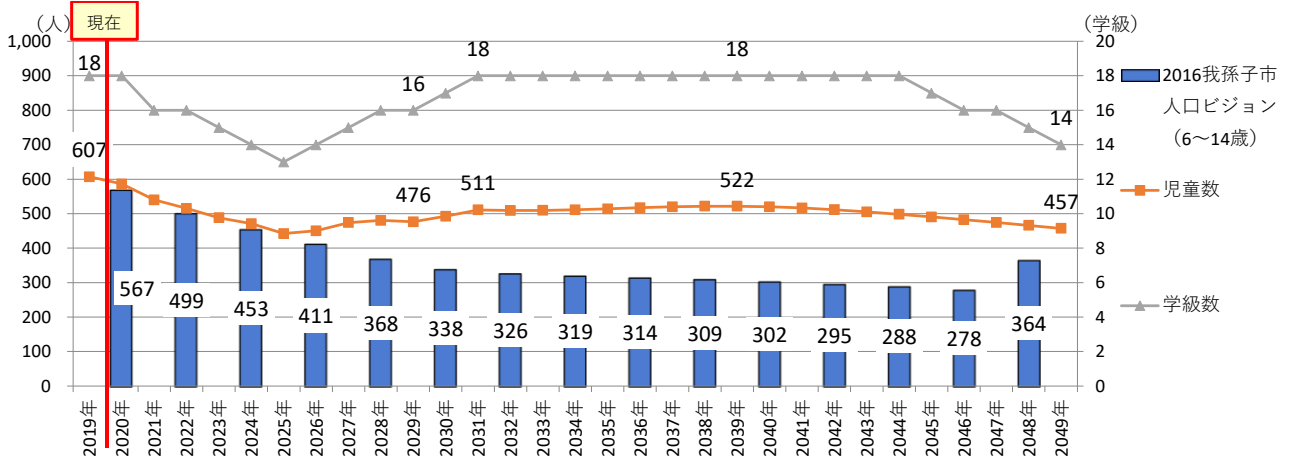
※推計2による推計結果。
 ※児童生徒数は、特別支援学級を含む。
 学級数は、特別支援学級を含まない。



○我孫子第三小学校

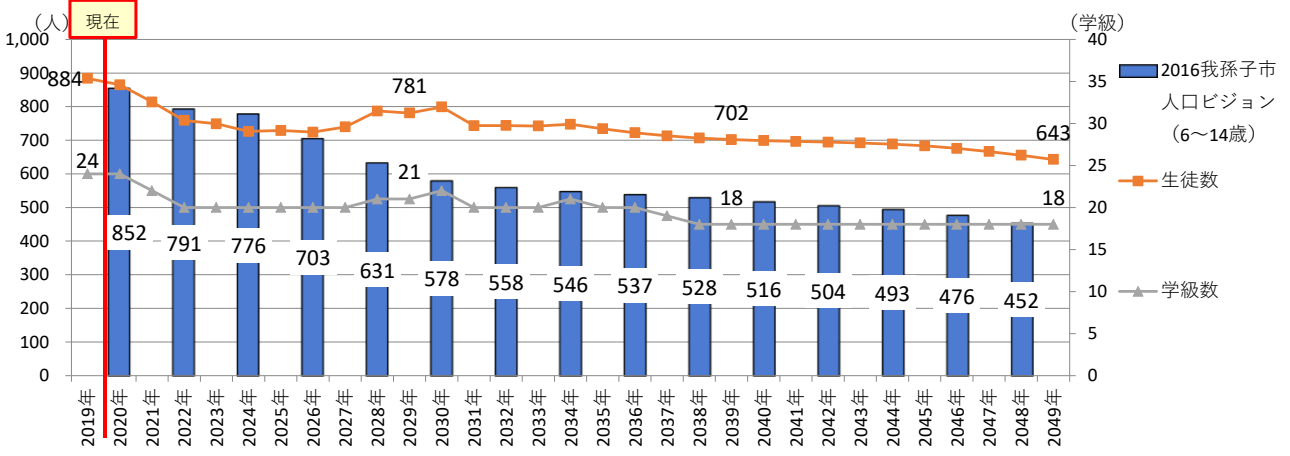


○高野山小学校



※推計2による推計結果。
 ※児童生徒数は、特別支援学級を含む。
 学級数は、特別支援学級を含まない。

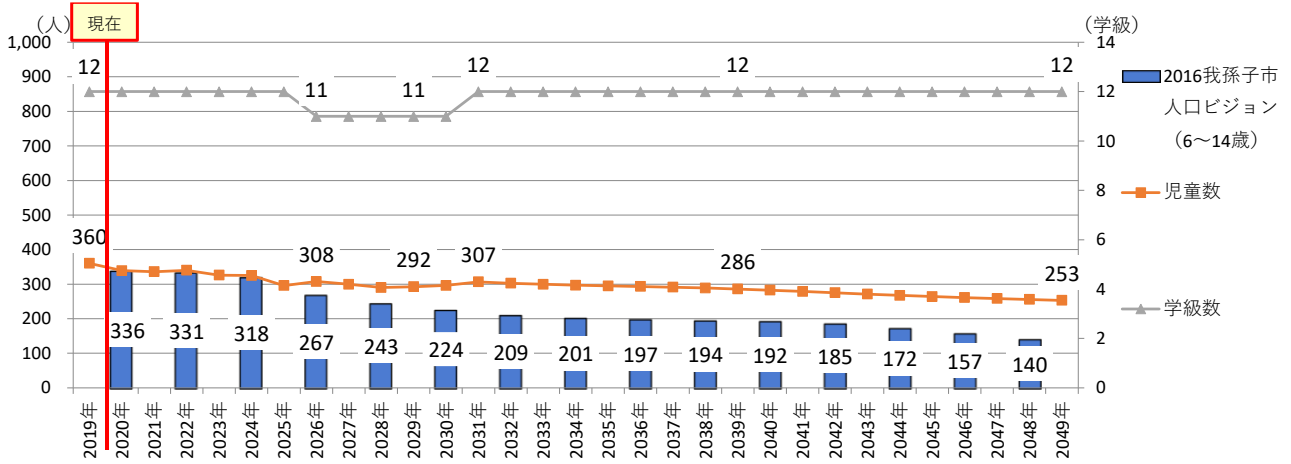
○我孫子中学校



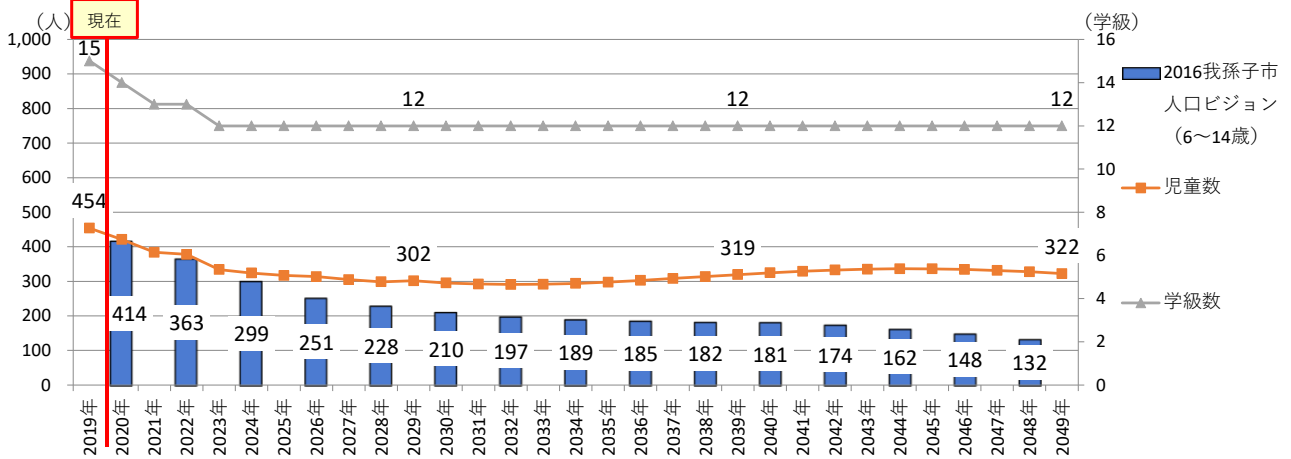
湖北中学校区

○湖北小学校

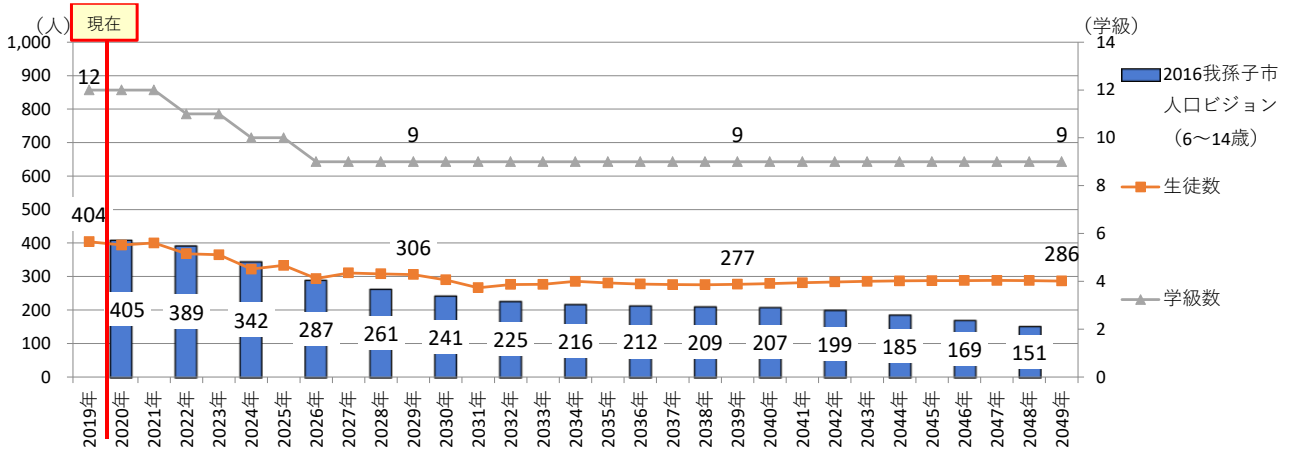
※推計2による推計結果。
 ※児童生徒数は、特別支援学級を含む。
 学級数は、特別支援学級を含まない。



○新木小学校



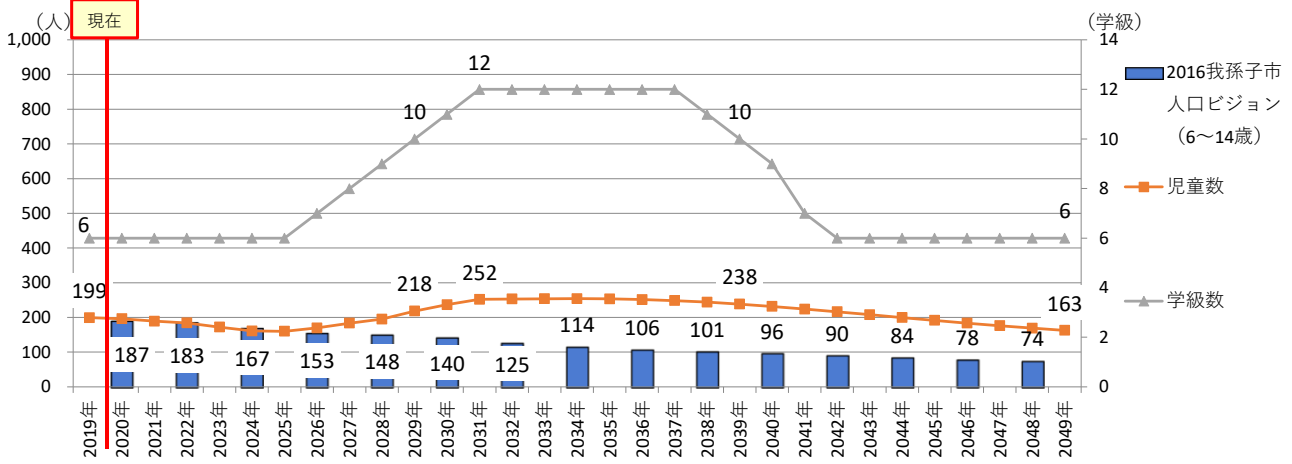
○湖北中学校



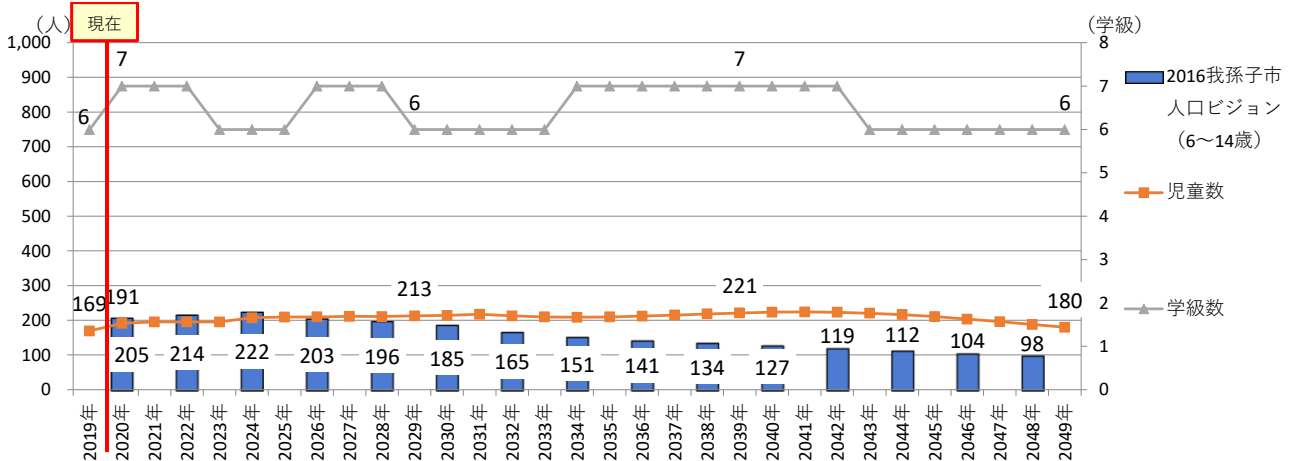
布佐中学校区

○布佐小学校

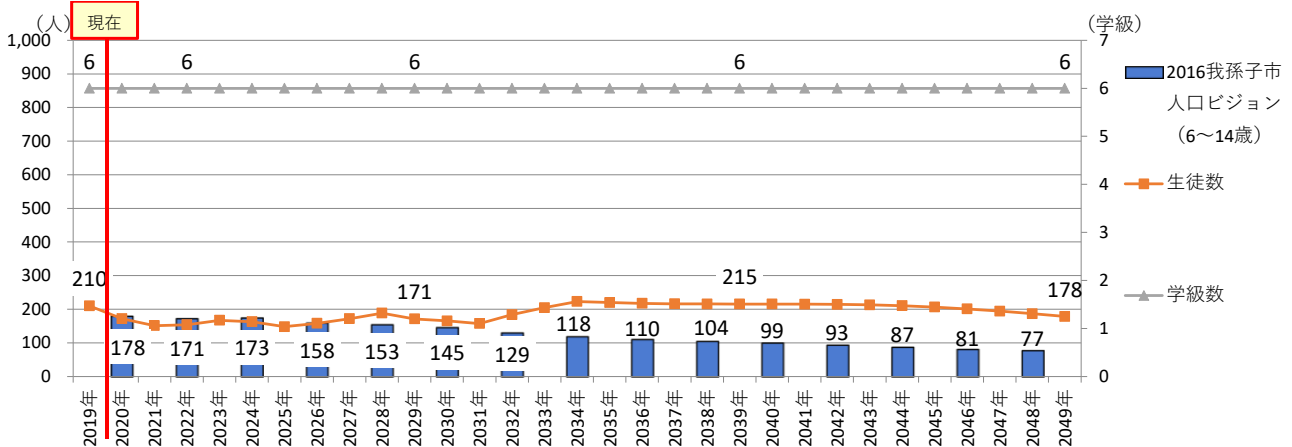
※推計2による推計結果。
 ※児童生徒数は、特別支援学級を含む。
 学級数は、特別支援学級を含まない。



○布佐南小学校



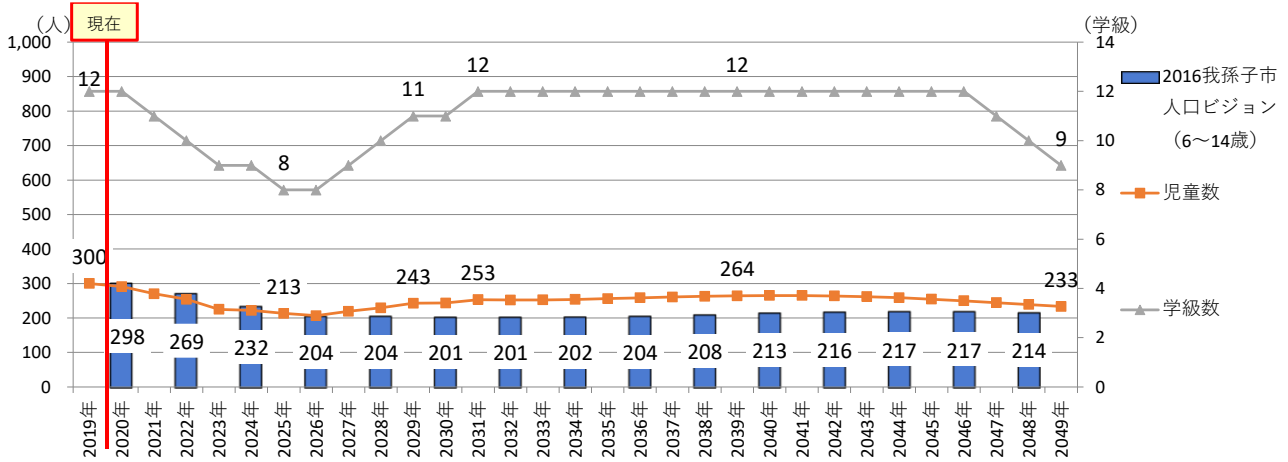
○布佐中学校



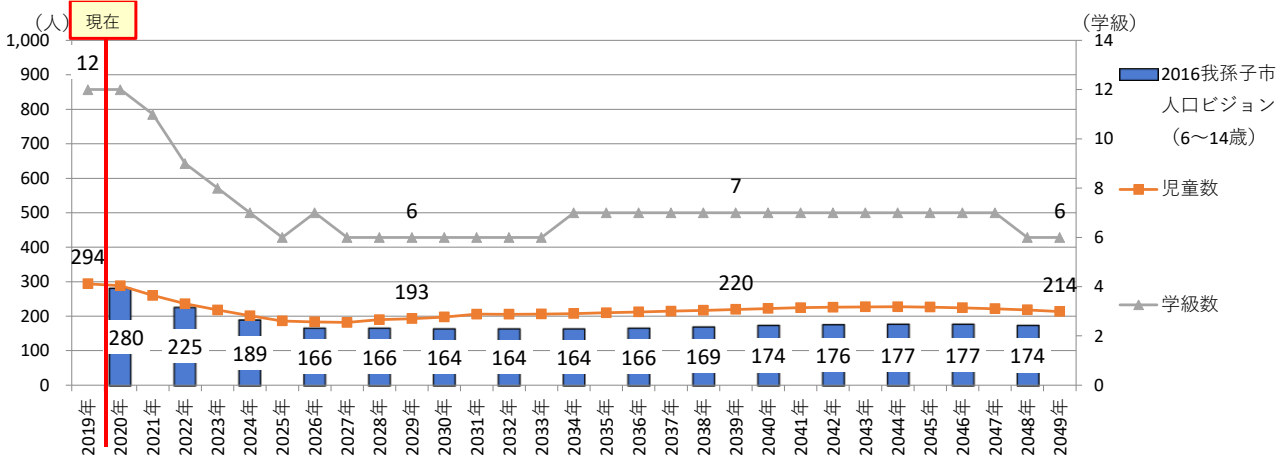
湖北台中学校区

※推計2による推計結果。
 ※児童生徒数は、特別支援学級を含む。
 学級数は、特別支援学級を含まない。

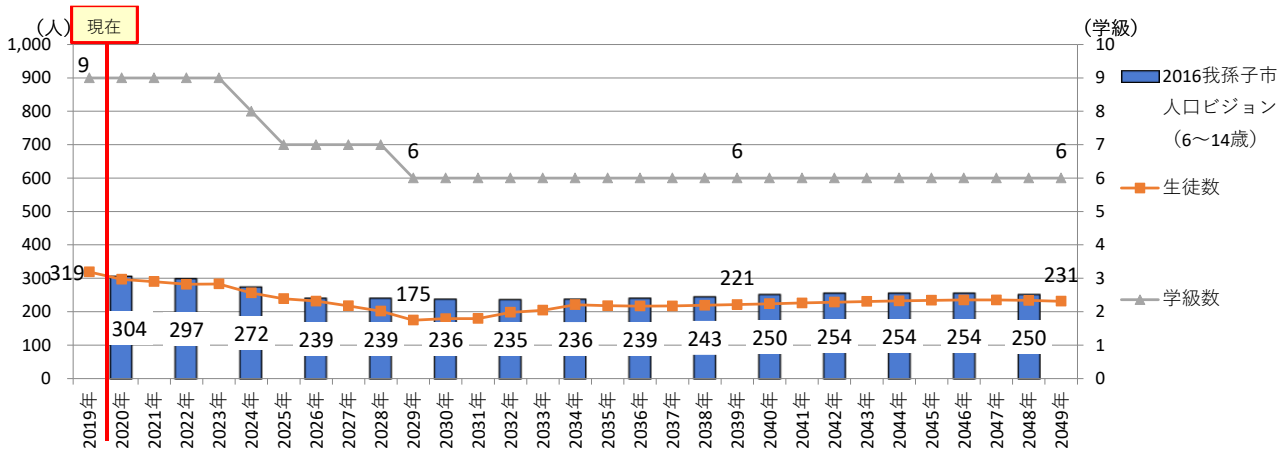
○湖北台西小学校



○湖北台東小学校



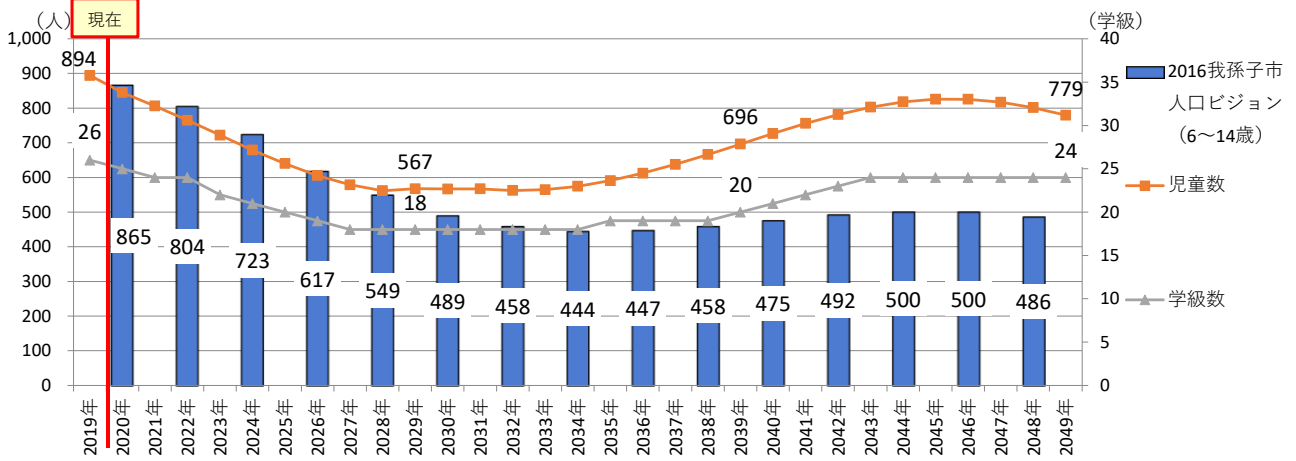
○湖北台中学校



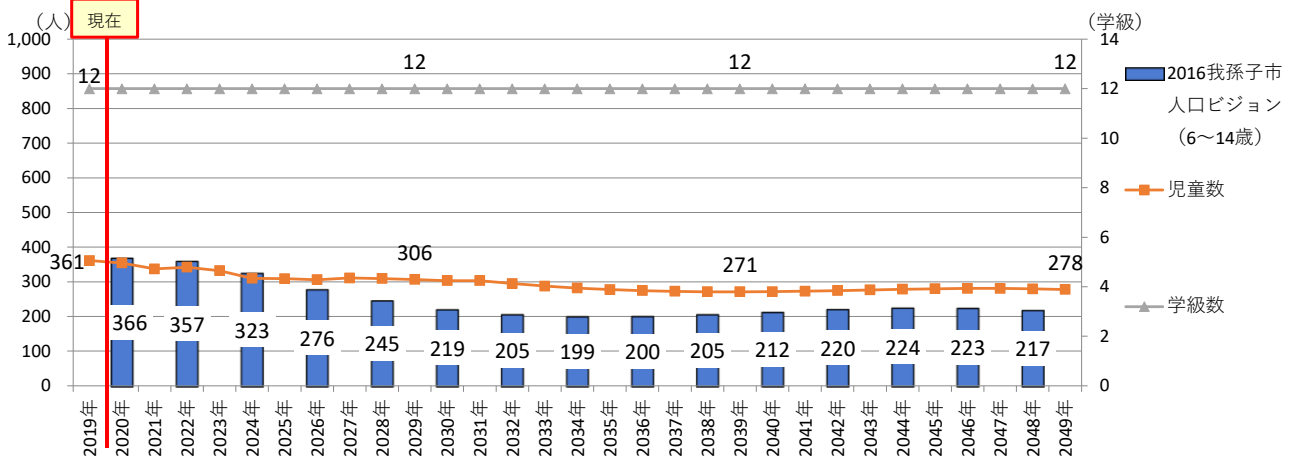
久寺家中学校区

○根戸小学校

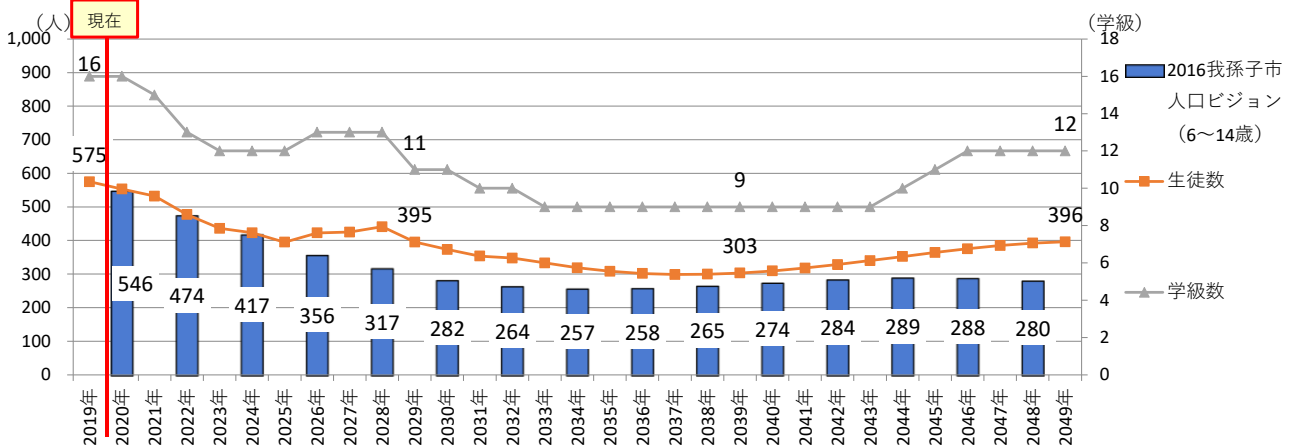
※推計2による推計結果。
 ※児童生徒数は、特別支援学級を含む。
 学級数は、特別支援学級を含まない。



○並木小学校



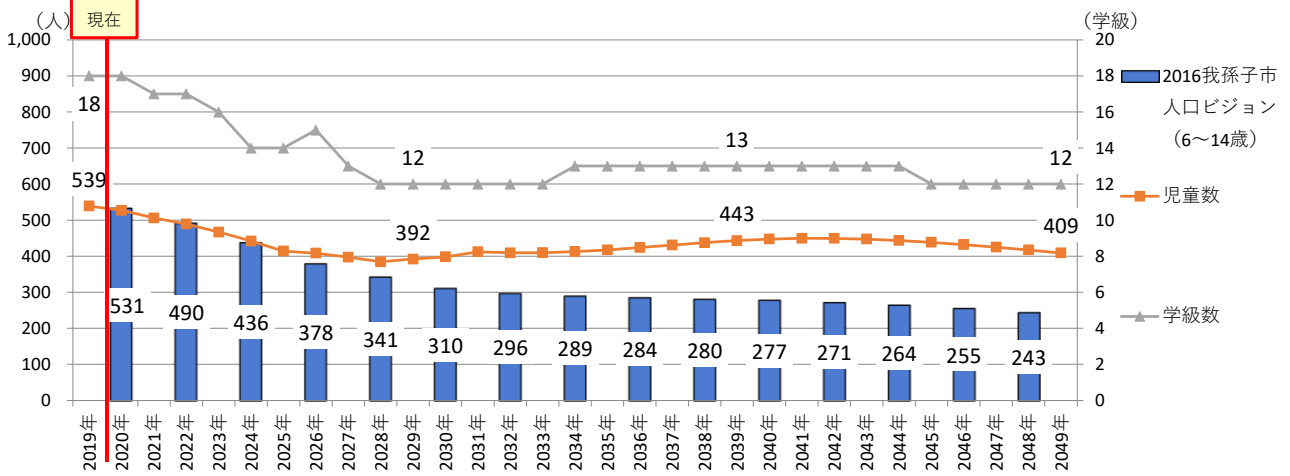
○久寺家中学校



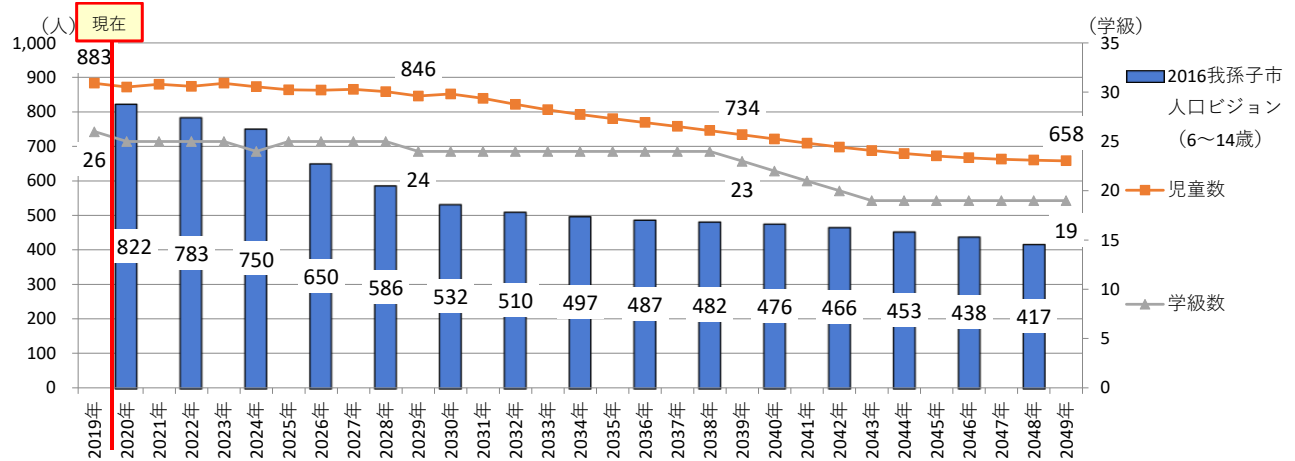
白山中学校区

○我孫子第一小学校

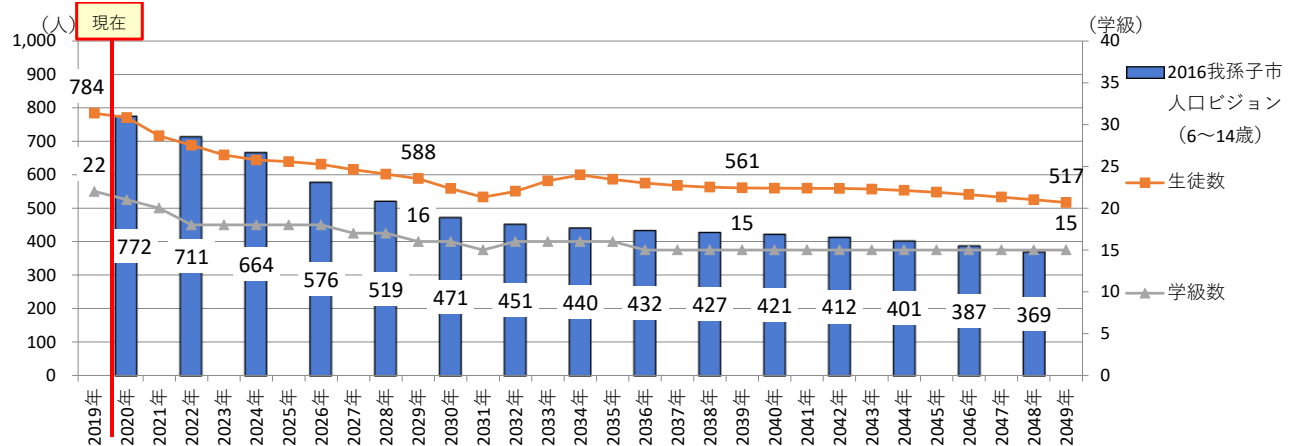
※推計2による推計結果。
 ※児童生徒数は、特別支援学級を含む。
 学級数は、特別支援学級を含まない。



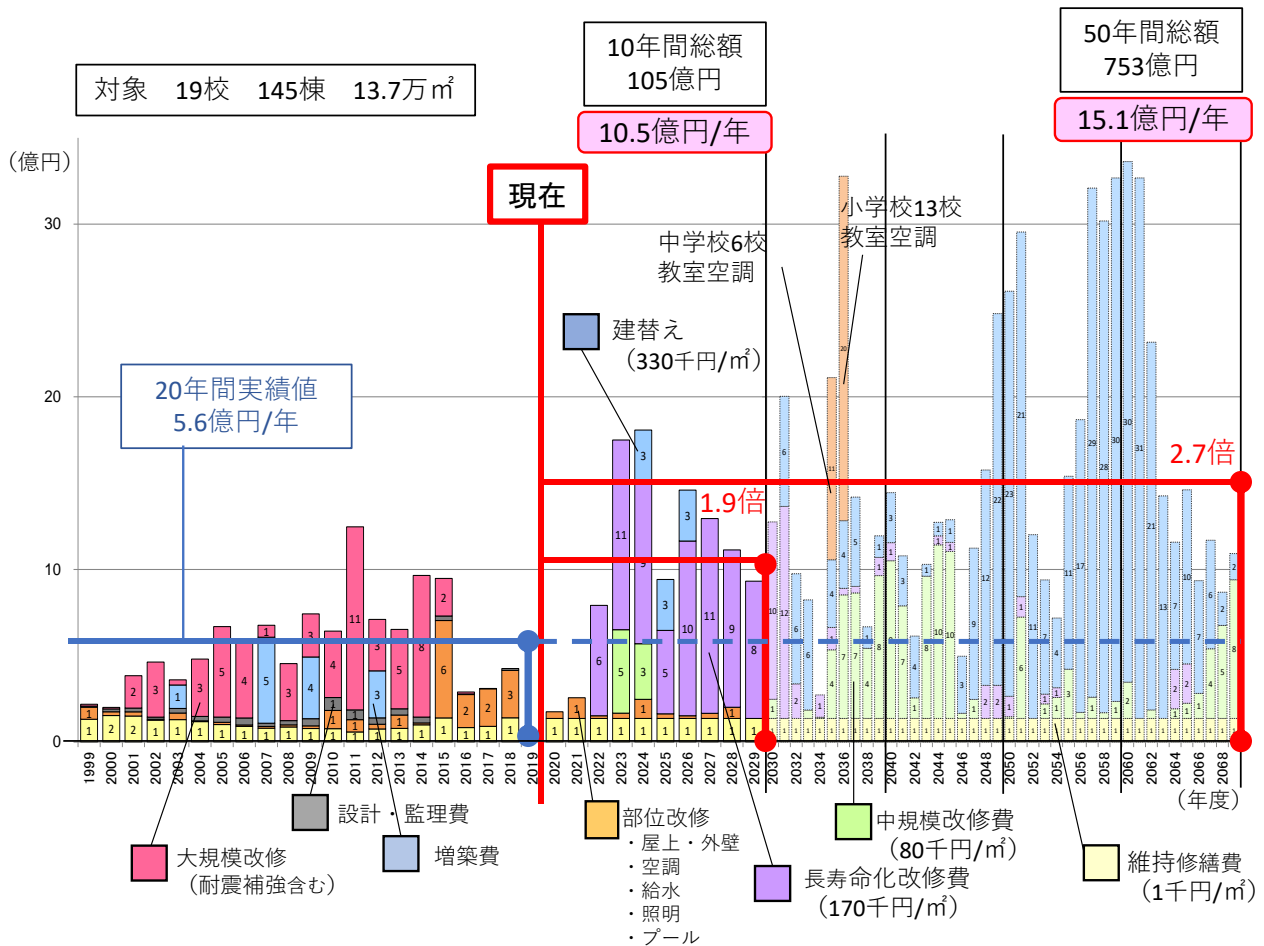
○我孫子第四小学校



○白山中学校



4 布佐中学校区3校を加えた長寿命化のコスト見通し



長寿命化改修の内容	
	・ 躯体補修
機能回復	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防水改修 (断熱化) ・ 外壁改修 (断熱化) ・ 電気設備機器交換 ・ 給排水設備機器交換 ・ 空調機器交換 等
機能向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開口部改修(サッシ交換) ・ 内部改修 (用途変更・諸室構成の見直し含む) ・ 機能向上に伴う設備システム変更・機器交換 (配管・配線類含む) ・ ユニバーサルデザイン ・ 防災・防犯・トイレ改修 ・ 省エネ化・高耐久改修

10年間の対応範囲				コスト	
建替え	4棟	2,681㎡	—	9億円	105億円
長寿命化改修	24棟	15,895㎡	機能回復 機能向上	70億円	
中規模改修 (機能回復)	5棟	10,067㎡	建替え、長寿命化改修は含まない	8億円	
躯体以外の部位	16棟		屋上・外壁 空調、給水 照明、プール	4億円	
維持修繕		グラウンドやプール等の修繕、軽微な修繕	1,000円/㎡	14億円	

我孫子市学校施設個別施設計画

令和2年3月
我孫子市教育委員会